

# 2013 社会・環境報告書

Social & Environmental Report

大日本塗料株式会社



JR東京駅：復元工事が完成した「東京駅」丸の内駅舎の白い窓枠、アルミ建材および丸窓飾り部分には、当社の焼付形ふっ素樹脂塗料「Vフロン#2000」や「デュフナー#100S」が塗装されています。

## 人と地球に優しい技術、 感性豊かな色彩を提供します。

私たち大日本塗料グループは、これまで環境や資源を護り、  
社会の発展と暮らしの向上に貢献することを願って、  
さまざまな製品とサービスをお届けしてきました。

人類がより良い生活を求めた代償として、地球温暖化、大気汚染など環境変化が顕著となった今、  
私たちはすべてのステークホルダーと協調し、環境保護への取り組みを一層強化しなければなりません。

これからも私たち大日本塗料グループは法令の遵守にとどまらず、  
環境や安全、健康に配慮した企業活動を推進してまいります。





### 塗料業界初の環境格付を取得

2012年2月、大日本塗料は株式会社日本政策投資銀行(以下DBJ)より、「DBJ環境格付」に基づく融資<sup>\*1</sup>を受けました。

当社は、「環境負荷が小さく持続可能な社会を築いていくことが重要である」という認識のもと、環境への対応を業界ではいち早く取り組み、塗料のもつ多様な機能を活かした製品開発を推進してきました。今回の評価では、

- (1) 環境配慮製品の売上高を拡大させている点
- (2) 独自の「環境セミナー」を継続的に開催する等、幅広いステークホルダーに対して製品の環境情報を開示することにより、環境に配慮した塗料の普及に努めている点
- (3) 国内外の生産子会社において環境マネジメントシステムの構築を推進し、グループ全体で環境配慮製品の開発・製造に取り組んでいる点

が高く評価され、「環境への配慮に対する取り組みが先進的」という格付を取得しました。

<sup>\*1</sup> 「DBJ環境格付」融資: DBJが開発したスクリーニングシステム(格付システム)により企業の環境経営度を評点化、優れた企業を選定し、得点に応じて3段階の適用金利を設定するという、「環境格付」の専門手法を導入した世界で初めての融資メニュー

※ 2012年度は二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量削減目標を達成しました。(2010年度原単位比)



当社は、平成24年2月日本政策投資銀行(DBJ)より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが先進的」と評価されました。

## 目次

トップメッセージ .....	2
<b>特集</b>	
環境に優しい水性塗料で 大型鋼構造物を長期にわたり護る .....	4
「DNT環境塾 環境と塗料についてのセミナー」10年の歩み .....	6
TOPICS .....	8
<b>環境報告</b>	
環境経営の基本方針 .....	10
環境マネジメント .....	11
事業活動と環境保全活動 .....	13
環境安全行動計画と実績 .....	14
地球温暖化防止への取り組み .....	16
大気汚染防止／水質汚濁防止 .....	17
化学物質の管理 .....	18
廃棄物の削減／グリーン調達・購入 .....	20
環境コミュニケーション .....	21
<b>社会性報告</b>	
お客様との関わり .....	22
従業員との関わり .....	24
社会との関わり .....	27
<b>マネジメント</b>	
コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス .....	28
海外グループ会社の取り組み .....	30
会社概要 .....	32

### 編集方針

当社は、2004年から毎年「環境報告書」を発行しています。2007年度からは環境報告に加え、社会性報告の充実を図り、大日本塗料のステークホルダーや本書の読者の方々への関心にお応えすべく情報公開に努めています。また編集に際しては、環境省「環境報告ガイドライン2007」を参考にしています。

### 報告対象範囲

大日本塗料グループ  
(ただしデータ集計の範囲は大日本塗料(株)の事業所)

### 報告対象期間

2012年4月～2013年3月  
(一部、2013年4月以降の活動を含む)

### お問い合わせ先

大日本塗料株式会社 環境品質保証部  
TEL: 06-6466-6662 FAX: 06-6463-1394

### 大日本塗料ホームページ

URL: <http://www.dnt.co.jp/>

内外の市場に提供する当社製品の機能・特性を  
しっかりと見つめ、環境保全、社会インフラの補修・補強など  
社会に貢献できる事業活動を推進します。



### 抜本的な補修が必要な時期に 入りつつある社会インフラ

東日本大震災は日常生活における社会基盤の脆弱さを教えるものでした。特に原子力発電所の事故によって、電力で支えられていた私たちの暮らしのありようにも、意識の変革が求められるようになりました。

一方で、2012年12月に高速道路のトンネル内で天井板のコンクリートが約130mにわたって崩落し、多くの死傷者がでた事故は、また別の意味で私たちに社会インフラの安全性に対する認識の転換を迫るものであったといえます。

わが国が戦後復興期を終え、高度経済成長時代に移行したのは1960年代のことです。この時期には全国各地で道路や橋梁、トンネルなどの構造物が多数建設され、急速に社会インフラが整備されました。つまり、ほとんどの構造物は建設後から半世紀という時間を経ていることになり、補修などの面で抜本的な取り組みが必要な時期に入っているといえます。

### 大型鋼構造物の長寿命化と 環境問題への貢献

社会インフラを構成している大型鋼構造物の建て替えには莫大なコストと時間がかかるため、補修や補強による維持管理を行うことで長寿命化が図られています。その中で橋梁や各種プラント設備などの鋼構造物を腐食から護り、美観を維持する役割を担っているのが重防食塗装です。

このたび当社が開発した「DNT水性重防食システム」は、防食下地から上塗塗料まですべてを水性塗料としたもので、従来の溶剤形重防食塗装システムと同等の塗膜性能を発揮して、大型鋼構造物の長寿命化を支える画期的なものです。これまで大型鋼構造物分野では、水性塗料の適用が遅れていましたが、「DNT水性重防食システム」の開発により、塗料中のVOC（揮発性有機化合物）を大幅に削減することができました。

一方、鋼構造物における塗膜の健全度および塗膜下金属の

腐食状態を診断する塗膜下金属腐食診断事業を、2013年1月に開始しました。この事業を通じてユーザーに最適な塗装仕様を提案し、鋼構造物の安全性の確保、計画的な維持管理、さらにはLCC(ライフサイクルコスト)の低減にも貢献していきたいと考えております。

防食性能や景観性の観点から防食塗料は秀でており、今後も当社は高品質で多用途に展開できる防食塗料の開発を通じて、わが国の社会インフラを支える構造物の長寿命化を実現し、塗料メーカーとして持続可能な社会構築の一翼を担ってまいります。

## 塗料メーカーが果たすべき「護り、彩る」という使命

塗料の役割は構造物を保護するだけではありません。

塗料本来が持つ機能とは、暮らしや社会の中でさまざまなものを塗装による塗膜で永く護り、色彩設計で日々の暮らしを彩り、人びとの心に楽しみと安らぎ、心地よさを提供するものであるといえます。この「護り、彩る」ことで社会に貢献することもまた塗料メーカーに与えられた大切な使命です。

昨年完成した東京湾の港湾機能を高める「東京ゲートブリッジ」(2012年2月に開通)に、当社製品の鋼構造物用ふっ素樹脂塗料「Vフロン#100H」が採用され、また首都における新しいランドマークとなった「東京スカイツリー<sup>®</sup>」(2012年5月に電波塔・観光施設として開業)には、100年間の美観維持をめざして同じく当社の重防食塗装用厚膜形ふっ素樹脂塗料「VフロンHB」が全面的に採用されました。

これらの構造物は、「豊かで快適な環境作り」をテーマとし、塗料・塗装を用いた建築物・構造物におけるカラープランニングのオープンコンペ「グッド・ペインティング・カラー」の新築部門で最優秀賞(東京ゲートブリッジ)、優秀賞(東京スカイツリー<sup>®</sup>)をそれぞれ受賞しました。

とくに東京ゲートブリッジに対しては「周辺環境から選定した色をトラスと桁に使い分け、特徴的な形状を背景から程良く浮かび上がらせている」「橋梁特有の景観特性を生かした質の高い色彩計画である」と評価され、周辺環境への調和と

美観創造という塗料メーカーとして当社が取り組む「護り、彩る」という企業理念を体現したものとなりました。

## これから私たちが取り組むべきこと

もちろん、社会的な存在である企業としては「護り、彩る」というレベルにとどまることなく、事業活動の全領域において環境保全の取り組みを推進することも求められます。

それに応えたのが、たとえば環境に与える負荷が大きいだけでなく、深刻な大気汚染を生むVOCをゼロにした水性塗料「ノボクリーンシリーズ」、作業に従事する人の安全こそが最優先であるとして開発した重金属フリーの「グリーンシリーズ」、高い遮熱効果によって省エネを図り、ヒートアイランド現象の緩和をめざす遮熱塗料「エコクールシリーズ」など一連の商品開発でした。

塗料事業以外においても、業務用大型インクジェットプリンター向けにVOCの排出量が極めて少ない水系インクを発売するなど、環境性能に対する高いニーズに応える製品開発に取り組んでいます。照明機器事業においては、東日本大震災により電力供給体制が不安定となり、国内全体で節電が強く意識される中、節電効果が大きいLED照明分野への拡販に注力しています。

また蛍光色材事業では、蛍光塗料の特性である高視認性を生かした用途開発に取り組み、衣料品や安全・防災に貢献しています。

当社は今後とも提供する製品・サービスを通じて、社会的要請である環境保全、社会インフラの補強・防災に貢献することを使命として、全社一体となった事業活動により持続可能な社会の実現をめざしてまいります。

今後ともご支援ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 い わ さ と し じ ろ う  
**岩浅 壽二郎**



## 特集

# 環境に優しい水性塗料で 大型鋼構造物を長期にわたり護る

### 時代と社会の要請に応える塗料の開発

塗料には防食による構造物の保護、外装の美観維持などに高い基本性能が求められますが、最近はそのに加えて環境問題、費用対効果を考えるうえで重要な基礎となるLCC（ライフサイクルコスト）の低減などが重視されるようになってきました。とくに塗料が塗膜になっていく過程で放出され、大気汚染の原因物質となるVOC（揮発性有機化合物）の排出削減は、塗料メーカーとして真摯<sup>しんし</sup>に取り組むべき重要な課題です。

こうした時代と社会の要請に独自の塗料設計で応えたのが「DNT水性重防食システム」です。

### 課題を解決する塗料設計と着実な施工実績

水には揮発速度が遅く、表面張力が高いという特性があります。そのため防錆・防食用に水性塗料を取り扱う時には、①希釈シンナーによる乾燥性の調節ができない②乾燥が溶剤形と比較して遅く、高湿度下では白化などの不具合を生じやすい③基材とのなじみが悪く、さびへの浸透性が低い<sup>しんし</sup>ため素地調整が十分に必要である—という点に留意しなければなりません。また大型鋼構造物は屋外で建設されるものが





多く、塗装後間もないうちに降雨・結露に遭遇してしまうことも考慮に入れなければなりません。

「DNT水性重防食システム」では、このような問題を解決するために塗装後の早い段階で塗膜が乾燥し、水に溶解しにくい設計を構築し、防食下地であるジंकリッチペイントから上塗塗料まですべてを水性塗料で構成しています。

それぞれの塗料はJIS規格が定めた試験項目に合格しており、従来の溶剤形重防食システムと同等の防食性・耐候性を有していることが各種試験で確認されています。現在、橋梁・鉄塔・タンク・プラント設備・立体駐車場等での施工実績を積み重ねています。

### 地球環境への貢献と安全性の向上

「DNT水性重防食システム」は、重防食塗料システムをすべて水性塗料で構成しており、塗料中の溶媒および希釈剤も水であることから、既存の溶剤形塗料を用いた塗装システムと比較して、VOCの放出を新設塗装系で約90%、塗り替え塗装系では約85%低減できます。したがって、この塗装システムを採用することにより、塗装時のシンナー等による臭いもほとんどなく、塗装環境の大幅な改善ができ、ひいては

地球環境の維持、保全につなげることができます。

また、水性塗料のほとんどは消防法では非危険物扱いとなるため、倉庫での貯蔵量を大幅に増やすことができるとともに、塗料の希釈に水道水が利用できるため専用シンナーを保管する必要もありません。

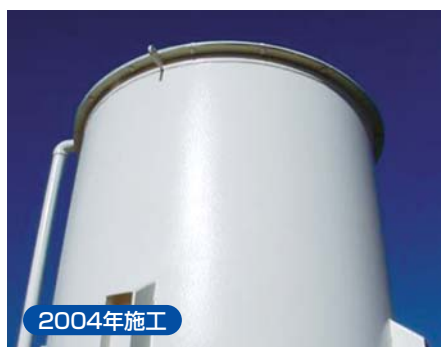
### 大型建造物の長寿命化を通じて持続可能な社会の構築へ

「DNT水性重防食システム」は、塗装環境および地球環境への影響を低減した画期的な塗装システムであり、溶剤形重防食塗装システムと同等の塗膜性能を有するため、橋梁・各種プラント設備等の大型鋼建造物の長寿命化を支えていくことができます。

また、これまでシンナーの臭気等により適用が困難であった住宅街や人通りの多い繁華街、駅およびその周辺においても、従来よりも耐久性の高い重防食塗装の展開が可能となります。

今後も幅広い分野で水性化に取り組むとともに、より一層技術を進歩させ、既存商品以上の性能、機能を発揮できる商品を生み出し、持続可能な社会への貢献を目指します。

### 適用実績 鋼製タンク



#### ● 適用仕様

水性エポキシ樹脂塗料  
(60μm×2回)  
水性ふっ素樹脂塗料上塗  
(30μm)

# 「DNT環境塾 環境と塗料についてのセミナー」 10年の歩み

当社では毎年、建築塗装分野の動向や国内外における環境問題の現状などについての基調講演や、ゲストの講師及び当社技術スタッフが、時代に対応した環境対応形製品を解説・紹介する「DNT環境塾 環境と塗料についてのセミナー」を開催しています。10年目を迎えた2012年度は「塗料で貢献する環境支援」をテーマに全国10か所で実施し、近藤照夫ものつくり大学(埼玉県行田市)教授による基調講演「建築内外装を取り巻く技術動向」のほか、当社技術スタッフによる環境対応技術に関する講演も行いました。

また、このセミナーの一環として東京で年一回開催しているのが「カーテンウォールコーティングフォーラム」です。2012年度は「環境に配慮した加熱硬化形塗装仕様の動向」をテーマに基調講演が実施され、その後業界各社の技術責任

者が参加したパネルディスカッションもあり、活発な議論が展開されました。

今後も両セミナーの継続開催を通じて塗料にとっての「環境」とは何か、その技術的な可能性をめぐる多様な情報を発信してまいります。



「DNT 環境セミナー」会場風景

## ■ セミナー開催地

札幌、盛岡、仙台、新潟、  
水戸、東京、名古屋、富山、  
石川、大阪、岡山、広島、  
高松、福岡、石垣島、  
宮古島、沖縄



- 環境と塗料についてのセミナー
- カーテンウォールコーティングフォーラム
- ☆ 基調講演
  - ・ 技術講演
- パネルディスカッション

## ■ テーマと講演内容

### 2003

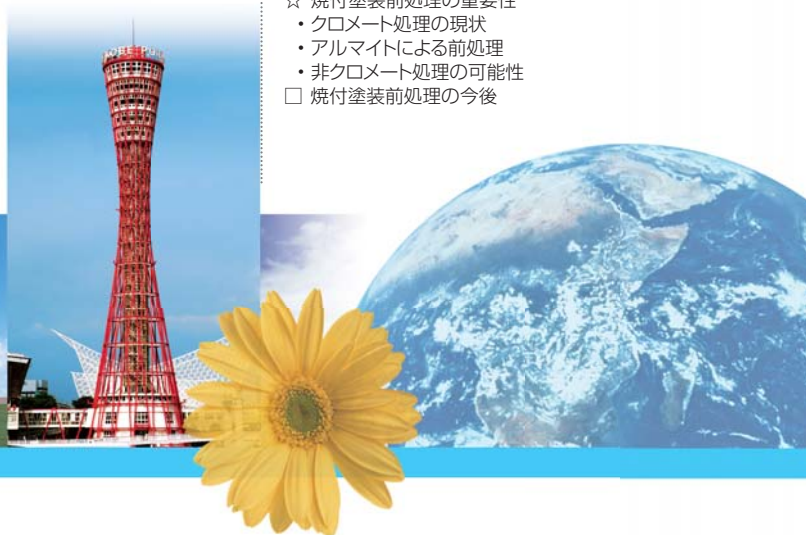
- 環境とリニューアル
    - ☆ 環境保全とリニューアル
      - ・ さび止め塗料とグリーン購入法
      - ・ 室内環境とグリーン購入法
      - ・ 室内環境と改正建築基準法
- (開催回数：6回)

- 水性樹脂塗装の歩みと将来展望
  - ☆ アルミ外装と塗装
    - ・ 溶剤可溶性水性樹脂の特徴と今後の技術動向
    - ・ カイナー500®塗装について
  - アルミ外装の将来展望

### 2004

- 2004年環境とその対応
    - ☆ 環境保全の推進と今後の動き
      - ー 公共建築工事標準仕様書の制定と今後の動きー
      - ・ 環境対応形塗料の問題とその対策
        - ー 公共建築標準仕様書の改訂も含めー
      - ・ 03年学校塗装とその総括・対策
      - ・ さび止め新JISと今後の動向
      - ・ (無償提供)色彩提案ソフトの解説と活用
- (開催回数：15回)

- アルミニウム焼付塗装
  - ー 前処理の今後ー
- ☆ 焼付塗装前処理の重要性
  - ・ クロメート処理の現状
  - ・ アルマイトによる前処理
  - ・ 非クロメート処理の可能性
- 焼付塗装前処理の今後





## 2005

### ● 2005年環境とその対応

- ☆ 環境規制に応じた仕様書・指針類の制改定
    - ・環境対応形塗料の問題とその対策
    - VOC・F☆☆☆☆などの環境用語の正しい理解—
    - 正しい環境対応形塗料の選び方—
    - ・構造物用塗料の環境対応について
    - 水性さび止め塗料における現状と問題点—
    - 環境対応塗料と機能性塗料について—
    - ・景観における条例と色彩の関わり
- (開催回数：12回)

### ● アルミニウム焼付塗装の現状と将来

- ☆ 焼付塗装の標準化と今後の方向
  - ・塗装におけるVOC規制とVOC排出規制
  - ・海外における六価クロム規制
  - ・塗料用ふっ素樹脂の環境対応
  - ・塗装業者としての環境対応への取り組み
- アルミニウム焼付塗装の方向性

## 2006

### ● 2006年環境と省エネ

- ☆ 環境と省エネルギー
    - 一断熱構法の有効性と遮熱・断熱塗料への期待—
    - ・遮熱塗料によるヒートアイランド現象の緩和
    - ・鉄部用塗料における環境対応動向
    - ・建築塗料における環境規制の現状と対策
- (開催回数：11回)

### ● アルミニウム焼付塗装

- 環境保全・健康安全への配慮—
- ☆ 環境への配慮—現状と今後—
  - ・ゼネコンの場合
  - ・表面処理専業企業の場合
  - ・非クロメート処理の評価検討
  - ・粉体塗料の検討
- 環境保全・健康安全への配慮

## 2007

### ● 塗料・塗装における環境配慮の動向

- ☆ 仕様書・指針類の改定における環境への配慮
    - ・環境に配慮した建築塗装システム
    - ・環境負荷低減形省工程塗装仕様について
    - 構造物のライフサイクルコスト(LCC)低減に向けて—
    - ・日塗工標準色「D版」完全活用法
- (開催回数：11回)

### ● アルミニウム焼付塗装

- 環境配慮の最新動向—
- ☆ 欧州と日本における環境配慮技術の動向
  - ・クロメート処理に対する代替技術の評価
  - ・QUALICOATの概要と動き
- 焼付塗装に対する環境配慮の今後

## 2008

### ● 環境保全に関する最新動向

- ☆ 環境保全と健康安全への配慮
    - 研究開発や規制の動向—
    - ・建築塗料環境Newスタンダード
    - 水性塗料・遮熱塗料の展開—
    - ・R&Lの低減
    - 環境負荷低減とライフサイクルコスト—
    - ・焼付塗装における環境規制
- (開催回数：11回)

### ● アルミニウム焼付塗装—最新技術の動向—

- ☆ 最新の研究成果と今後の方向性
  - ・日本建築仕上学会による研究成果
  - ・ゼネコンにおける取り組み
  - ・CW業界の動向
  - ・塗装業界の動向
- 塗装技術の今後

## 2009

### ● 塗料でできる環境への配慮

- 環境にやさしいマル得情報—
  - ☆ 建築塗装に関連する環境配慮
    - 国内と欧州の動向—
    - ・環境にやさしい塗装仕様の提案
    - 今すぐ簡単に!環境配慮への第一歩!—
    - ・環境にやさしいLCC削減仕様
    - 地球にやさしく経済的なインフラ整備と維持管理のために—
    - ・環境にやさしいDNTの焼付塗料
    - すぐでできる環境規制対策—
    - ・環境と人にやさしいカラーデザイン
    - カラートレンド・仙台市景観計画・カラーデザイン等—
- (開催回数：11回)

### ● アルミニウム焼付塗装

- 粉体塗装の技術の動向—
- ☆ 粉体塗装に関する最新研究成果と技術動向
  - ・日本建築仕上学会による研究成果
  - ・総合建設業界の取り組み
  - ・塗装業界の取り組み
- 粉体塗装技術の今後

## 2010

### ● 塗料で提案!—環境対策 & Eco Life—

- ☆ 深刻化する環境政策と建築工事標準仕様書の動向
    - ・人と住まいと地球にやさしい建築塗料の薦め
    - ・人と地球にやさしい防食新技術および補修工法の提案
    - 地球環境の持続的保全と経済的なインフラ維持のために—
    - ・金属焼付用塗料の最近の環境対応への取り組み
- (開催回数：11回)

### ● アルミニウム焼付塗装

- 急速に進む粉体塗装への注目—
- ☆ 粉体塗装に関する最新研究成果
  - ・日本建築仕上学会による研究成果
  - ・軽金属製品協会による実験的評価
  - ・ゼネコンでの評価検討
  - ・塗料メーカーの新技術
- 粉体塗装の適用と課題

## 2011

### ● 色彩調和・環境機能性塗料

- 可能性を広げる彩りとペイントテクノロジー—
  - ☆ 建築塗装分野の動向
    - 環境保全とJIS改正による仕様書の改定—
  - ☆ 進化し続けるカラーとペイントの可能性
    - ・遮熱塗料で提案する効果的な色彩設計
    - 高日射反射塗料の最新動向—
    - ・人と地球に優しく鋼構造物を護る防食技術
    - 耐火塗装システムとVOC削減仕様について—
    - ・カラーデザインの最新動向
    - 景観色彩の現状と日塗工「塗料用標準色F版」解説—
- (開催回数：9回)

### ● 環境に配慮した焼付塗装仕様の技術動向

- ☆ クロムフリー系化成処理と粉体塗装に関する最新の研究成果
  - ・日本建築仕上学会による研究成果
  - ・塗装工場での環境配慮の模索
  - ・着色塗装下地としての陽極酸化皮膜の実績と今後の方向性
  - ・最近の国内粉体塗装の外装使用事例紹介と今後の動向
- アルミニウム合金に対する焼付塗装仕様の方向性

## 2012

### ● 塗料で貢献する環境支援

- ☆ 建築内外装を取巻く技術動向
    - ・住まいの快適環境を支援するペイントテクノロジー
    - 水系塗料でできる事—
    - ・環境に配慮した最新の防食塗料技術
    - 水系塗料システムの進展—
    - ・安全・防災に使えるシンロイヒの蛍光・蓄光塗料
    - ・学校木床・クリーンルームへの水性塗料提案
    - ・復旧工事—土木用接着剤・水中防食材の提案
    - ・色の不思議と、新潟市の街の色
    - ・DNライティング(株)の環境対応
    - LEDランプの最新情報—
- (開催回数：10回)

### ● 環境に配慮した加熱硬化形塗装仕様の技術動向

- ☆ 塗装仕様に関する研究成果の概要
  - ・日本建築仕上学会による研究成果
  - ・ふっ素/ポリエステル系ドライブレンド粉体塗料の開発と展望
  - ・ふっ素樹脂粉体塗料の最新開発動向
- 環境に配慮した塗装仕様の方向性



## 塗膜の劣化状況を的確に把握する 「DNT塗膜診断システム」の事業化

社会インフラの劣化が進む中、構造物塗料の市場は新設から維持管理の時代へと移行しています。そこで重要となるのが、構造物における塗膜の劣化状況の把握です。鋼構造物の維持管理においては、LCC(ライフサイクルコスト)をいかに低減するかが大きな課題となっており、塗膜の劣化を正確に把握し、構造物の寿命が的確に判断できるシステムが切望されていました。

当社が開発した「DNT塗膜診断システム」は、そうした要望に応えるものです。

このシステムはカレントインタラプタ(CI)法(塗膜および塗膜下金属を電気化学的に測定する方法)を適用した塗膜下金属腐食診断装置を採用し、さらに当社が蓄積した塗膜および塗膜下劣化の定量的判定手法を盛り込んだものです。CI法による塗膜下金属腐食診断法は、1999年に公益社団法人腐食防食協会から技術賞を受賞し、2012年にはISO国際標準(ISO13129)にも認証・登録され、測定結果の信頼性の高さが認められています。

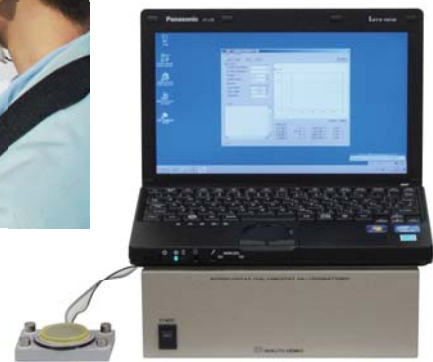
また、診断結果に加えて化学分析装置、画像処理装置および付着力測定などで得られたデータを、当社が新たに開発した診断ソフトに入力する

ことで、LCCを考慮した最適な塗り替え時期の提案、素地調整のグレードおよび経済性・環境対応・高耐久性など、お客様の要望に応じた各種塗装仕様の提案書を作成することが可能です。

「DNT塗膜診断システム」の適用範囲は電力・ガス・石油・水資源・通信などのプラント設備・橋梁と幅広く、さまざまな構造物の劣化状況を診断し、甚大な事故が発生する前の早い段階で必要な補修の実施を可能にします。それは、LCCの低減はもとより社会インフラの「予防保全」、つまり構造物の安全性の確保や長寿命化にも結びつくものといえます。

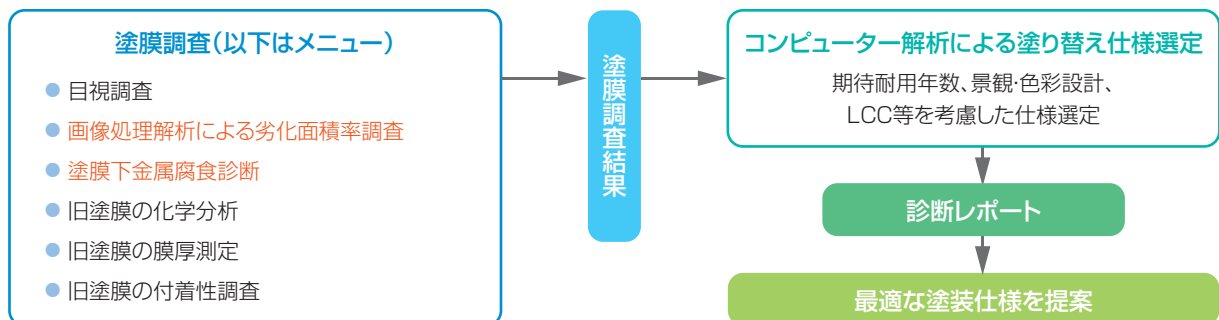


「塗膜下金属腐食診断装置」ポータブル用



塗膜下金属腐食診断装置

### ● 業務フロー



## ■ 外面防食塗料の新提案

地下に埋設した非常用発電設備の燃料タンクは危険物(ガソリン・軽油・重油など)を長期間貯蔵するため、外面防食については総務省令および消防法の規定があり、主にFRP・アスファルト・タール系が防食塗料として採用されていましたが、2005年にタール系塗料が使用禁止(総務省告示第349号)とされ、消防庁通知危第209号による性能規定の変更がありました。

これを受けて、当社のグループ会社であるビーオーケミカル株式会社では、外面防食塗装としてノンタール系無溶剤エポキシ樹脂系塗料「パーミクロン900KH」を

開発しました。FRP系より作業性・補修性・コスト面に優れているほか、1ミリ程度の膜厚を塗布

してもタレが生じず、ヘツジャンクロス(麻織布)との併用で耐水性・耐油性・耐薬品性に優れた防食効果を発揮するなどの特徴を備え、環境への負荷低減にも貢献しています。



地下埋設燃料タンク外面塗装風景

## ■ 安全・防災・減災対策に向け工場の安全対策カタログを作成

当社のグループ会社で蛍光塗料・顔料のトップメーカーであるシンロイヒ株式会社は、蛍光色の特徴を生かすことで安全・防災・減災への貢献をめざしています。

鮮明な色を呈する蛍光色は薄暗い場所でも視認性が高いことから、高層ビルにおけるヘリポート表示や災害時に、緊急物資を運ぶヘリコプターが場所を認知できるように、役所や学校・病院の屋上に施設名を表示するヘリサインなど、さまざまな用途で採用されてきました。

さらに2011年の東日本大震災以降、企業でも安全・防災・減災対策への関心が高まるなか、同社では「工場の安全対策～マーキングのご

提案」(カタログ)を作成し、各方面に配布しました。本カタログでは工場内の危険箇所や注意喚起箇所への蛍光塗料・蛍光テープの施工、突然の停電対策として蓄光材料の設置の提案も掲載しています。



工場内防護パイプの視認性向上



地下駐車場 梁、柱への接触防止



地下駐車場緑色の乗り上げ注意喚起

## ■ 看板向けなどの業務用インクで既存インクと差別化

業務用大型インクジェットプリンターは溶剤系インクが主流でしたが、屋内外を問わず使用が可能で、顧客への健康配慮とともに環境にも優しい無臭でVOCの排出量が極めて少ない水系タイプを開発し、「ジェット

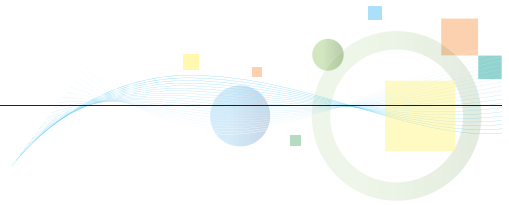
マーカー」シリーズの一部として市場に提供を開始しました。

水系インク使用ポスター



# 環境経営の基本方針

環境に配慮した製品の開発・製造・販売を  
経営の最重要課題のひとつとして位置づけています。



## 環境・品質保証担当役員のメッセージ

東日本大震災は、自然の脅威について我々に教訓を与え、日常生活における社会基盤の脆弱さを教えるものでした。また、高速道路トンネル内の事故は、高度経済成長期に整備された社会インフラの老朽化への対応について再考を促しているといえます。

一方、年々化学物質に対する規制が強化される中、地球環境を護り、商品開発や生産活動面で環境負荷の低減に取り組むことは、化学物質を取り扱う企業の社会的責任であると認識しています。

当社では環境対応技術を駆使して、環境負荷物質を低減する水性塗料、粉体塗料、室内環境対応形塗料や省エネルギーを実現する遮熱塗料、低温硬化形塗料、社会インフラを支える高耐久性塗料など多様な商品開発に注力し、お客様より高い評価を獲得しています。今後とも環境方針のもと研究開発、原料調達、生産、流通販売、塗装を経て廃棄に至るまでのライフサイクル全体での環境影響を最小とするとともに、環境と調和した事

業活動を推進していく所存です。

また、日本レスポンシブル・ケア協議会(現日本化学工業協会RC委員会)の設立発起人会社としてレスポンシブル・ケア(RC)活動を推進しており、化学物質を取り扱う企業として「環境・安全・健康」を最優先課題としてRC活動に取り組んで活動成果を公表し、積極的に社会との対話・コミュニケーションを展開しています。

今後も法令・規則を遵守し、環境や社会に貢献できる企業活動を進めてまいります。



取締役専務執行役員  
管理本部長  
せこ よしのり  
**瀬古 宜範**

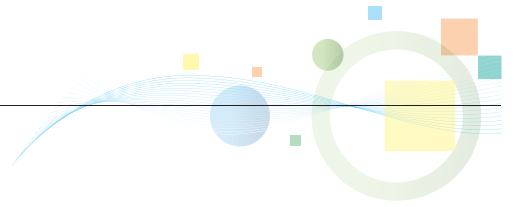
## 環境方針

大日本塗料株式会社は、「環境負荷が小さく持続可能な経済社会を築いていくことが重要である」との認識のもと、地球規模の環境保全活動を継続的かつ着実に推進しながら、塗料及び関連製品の開発・製造・販売を通じ社会に貢献する事を基本とする。活動は、以下の環境方針に基づき全員が一致協力して行う。

- ① 製品の研究開発から生産・販売・サービスを経て廃棄に至るまでのライフサイクル全体に渡り、事業活動から生じる環境への影響を常に的確に評価・把握できる環境マネジメントシステムを確立し、実施し、環境汚染を予防する。
- ② 環境マネジメントシステムを実施、維持し、PDCAサイクルによる継続的改善を図る。
- ③ 事業活動、製品及びサービスに係わる環境関連法規制、並びに当社が同意するその他の要求事項を遵守することを約束する。
- ④ 環境保全推進のため、次のテーマを重点的に取り組む。これらの活動は、環境方針に基づき、目的・目標を立て計画的に実施すると共に、内容を定期的に見直し、改善する。
  1. 環境負荷低減を可能にする塗料及び関連製品の開発、販売
  2. 揮発性有機化合物の適切な管理と削減
  3. 産業廃棄物の発生抑制とリサイクル促進
  4. 省エネルギー並びに地球温暖化防止活動
- ⑤ 環境方針は文書化し周知徹底すると共に、グループ会社を含めた全従業員(パート、派遣者等を含む)に対し環境教育を行うと共に、当社の事業活動に関与する人も含めて、環境保全に対する理解と意識の向上を図る。
- ⑥ この環境方針は一般に公開する。

# 環境マネジメント

環境方針に基づいた取り組みを推進するために  
日常的な監査体制や社内教育の整備を行っています。



## 環境保全活動体制

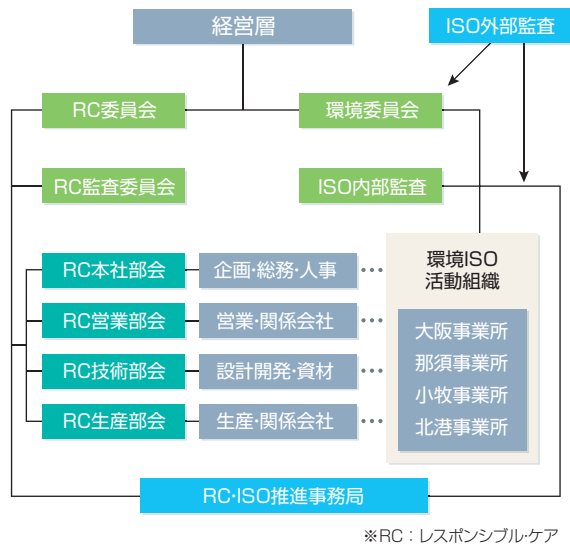
当社では、会社の全組織をその業務内容によって本社部門・営業部門・技術部門・生産部門の4つに区分する「部門制」を採用して、「QC」「工夫改善」「レスポンシブルケア」等の活動を行っています。

ISO活動では、会社組織の最小単位（通常は課・チーム等）での活動方式を取り入れ、運用責任を部署長に委ねています。

この活動体制をISOの基本である「全員参加」につながるものと位置づけ、紙・ゴミ・電気の削減など日常的に各自が関わる内容はもちろんのこと、環境対応形商品の設計・開発など、本来業務に関わる内容もマネジメントする活動に取り組んでおり、今後もこの体制の定着を図ります。

生産活動を行う那須事業所・小牧事業所では地球温暖化防止・水質汚濁防止・大気汚染防止・化学物質の管理などの環境保全活動にも取り組んでいます。

### ● 環境保全活動の推進体制



## 環境マネジメントシステム

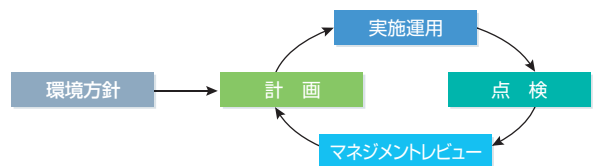
当社では、大阪事業所・那須事業所・小牧事業所・北港事業所の4事業所において、環境経営をさらに充実させるために国際規格ISO 14001に則った環境マネジメントシステム（EMS）を構築しています。その適切な運用により、当社の主力商品である重防食塗料が世界一高い電波塔や海上橋等に採用され、塗り替え回数の低減や省資源に貢献することにつながりました。

今後もこの環境マネジメントシステムを基軸とし、「環境負荷が小さく、持続可能な経済社会を築く」ことをめざしてグループ全体での環境経営体制の確立と強化に取り組んでいきます。

### ● ISO 14001 認証取得状況

事業所名	取得時期
大阪事業所	2002年3月
那須事業所	2003年3月
小牧事業所	2003年3月
北港事業所	2008年3月

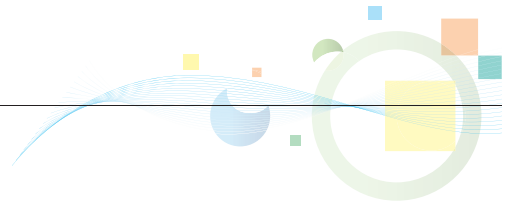
### ● 環境マネジメントの流れ



## 環境教育

当社は、社員や販売店等を対象に労働安全衛生に関わる有機溶剤中毒予防規則、作業環境測定法、消防法をはじめ、VOC規制や欧州のRoHS/ELV指令、REACH規制など国内外の環境関連法規、SDSの記載内容などを学ぶ環境教育を実施しています。これは塗料と労働安全衛生、環境問題との関わりについて理解を深め、環境保全意識の向上を図るためです。

新入社員には入社時の研修プログラムを通じて環境や労働安全衛生に関する基礎知識を習得させることで、各部署への配属後に役立つようなスキルアップに取り組んでいます。



## 環境監査

### 内部監査

大阪事業所・那須事業所・小牧事業所・北港事業所では、ISO 14001規格に基づき環境関連法や事務局で定めた重点項目などについての順守状況を確認するため、年一回定期的に内部監査を実施しています。

2012年度はエネルギー使用量の削減、資源の有効利用、リサイクルの推進を重点監査事項に設定し、有効に機能しているかどうか、改善すべき点はないかについて監査を行いました。

#### ● 内部監査の実施状況

項目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
	'10 1~2月 実施	'10 11~ 12月 実施	'11 10~ 11月 実施	'12 11~ 12月 実施
対象事業所数	4	4	4	4
活動単位数(部署)	69	79	69	82
指摘 件数	軽欠点(件)	20	18	17
	コメント(件)	31	40	16

### 外部審査

2012年度は外部維持審査を受け、ISO 14001認証の継続が認められました。

マネジメントシステムの運用状況、環境対応商品の開発状況やRC活動とともに、各事業所での環境活動の状況、環境負荷物質や産業廃棄物の管理状況、法規則の順守評価などの審査が行われた結果、「運用管理」および「順守評価」などにおいて指摘をうけ、是正および横展開を図りました。

#### ● 外部審査の実施状況

2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
'10 2月受審	'11 1月受審	'12 2月受審	'13 3月受審
対象：4事業所 軽欠点：4件 コメント：0件	対象：4事業所 軽欠点：3件 コメント：3件	対象：4事業所 軽欠点：1件 コメント：4件	対象：4事業所 軽欠点：2件 改善の機会：3件 (コメント)

## 環境会計

### 環境保全コスト

企業活動にともなう環境負荷を低減させる設備機器への投資、環境対応形商品の研究開発にともなう費用、環境情報の公開、地域活動への支援などの費用を環境保全コストとして集計・管理しています。

(単位:百万円)

コスト分類	事業エリア内コスト 上・下流コスト	管理活動コスト	研究開発コスト	その他コスト	合計
活動の内容	公害防止 地球環境保全・資源循環	EMSの整備・運用/環境情報の 開示・広告/社員への教育	環境保全に資する製品 研究開発	土壌調査・浄化 環境保全活動の地域支援など	
2009年度	78.6	10.4	58.6	7.9	155.5
2010年度	77.6	8.0	58.3	3.6	147.5
2011年度	151.9	24.6	93.5	2.7	272.7
2012年度	163.6	25.4	115.3	3.2	307.5

### 環境保全効果

2012年度においては大気汚染物質排出量は微減にとどまりましたが、エネルギー総使用量は大幅な削減となり、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)と水質汚濁負荷量も前年度よりも削減効果が得られました。

項目	削減量※	
大気汚染物質排出量	硫黄酸化物(SOx)排出量(t)	0
	窒素酸化物(NOx)排出量(t)	-3
	ばいじん排出量(t)	-0.1
水質汚濁負荷量(COD)(kg)	-42	
エネルギー総使用量[原油換算](kl)	-636	
二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量(ton-CO <sub>2</sub> )	-243	

※削減量は「2012年度-2011年度」で計算

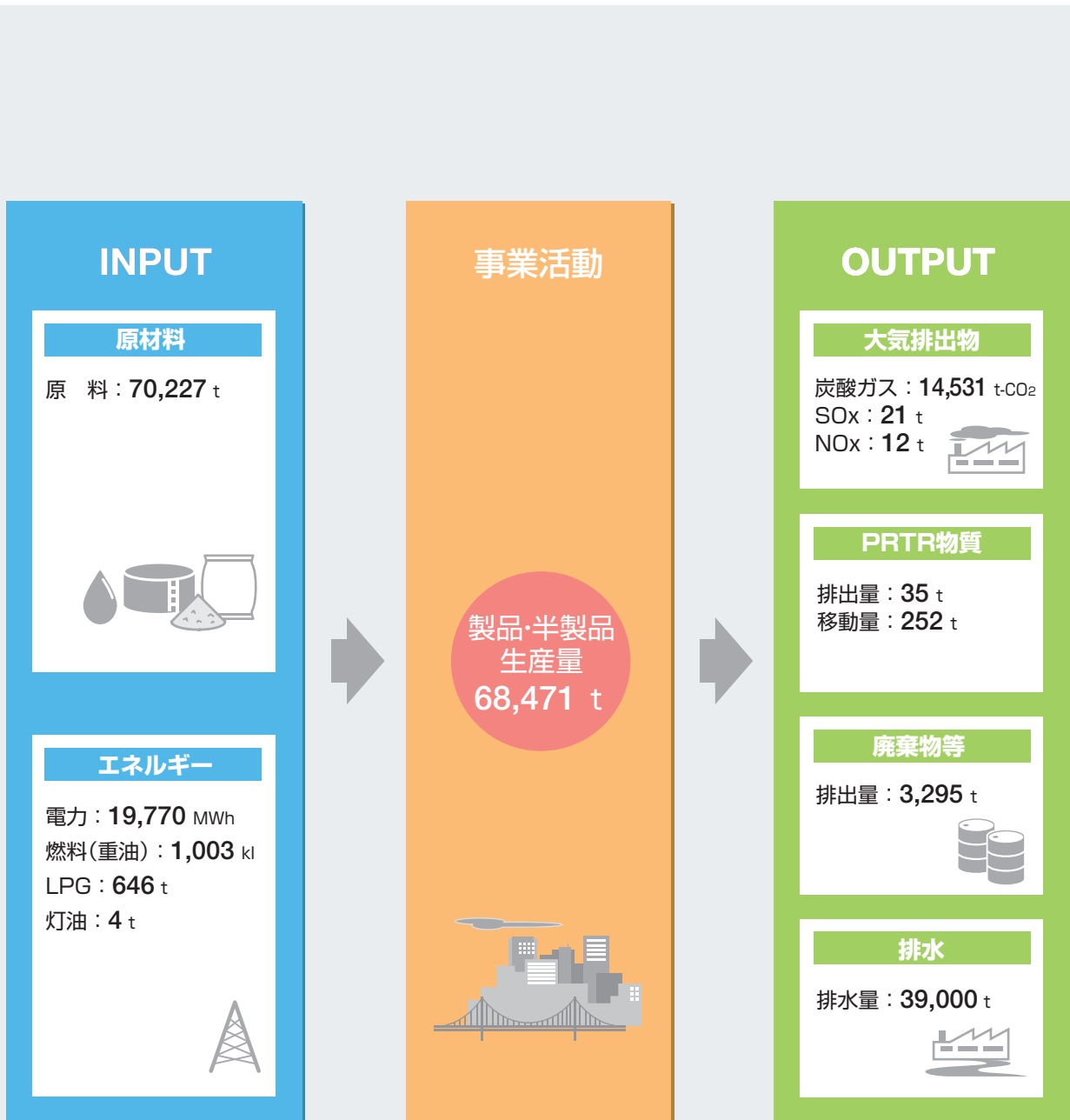
# 事業活動と環境保全活動

エネルギー使用量の削減、温室効果ガスや環境負荷物質の排出抑制など産業廃棄物と化学物質の適正な管理を行っています。



## 事業活動のマテリアルバランス

当社では、主力工場である那須工場および小牧工場における環境負荷を把握・分析し、原材料の有効活用、エネルギーの効率的な利用、排出ガス・排水・産業廃棄物の削減、リサイクル利用を推進しています。



※数値は那須工場・小牧工場の合計値です。

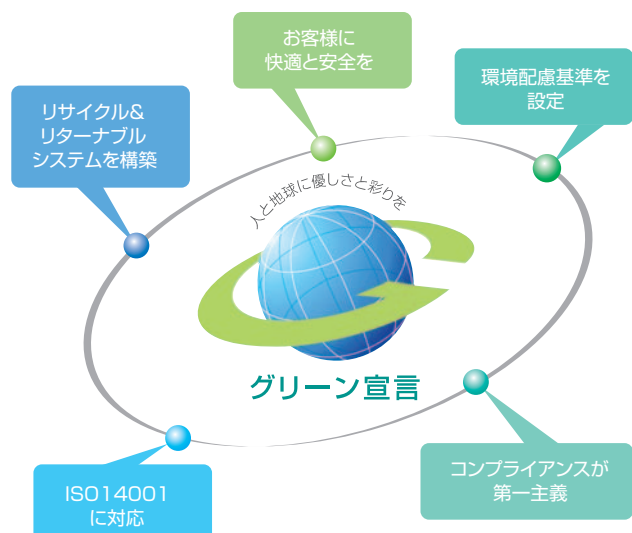
# 環境安全行動計画と実績

「環境への配慮」をコンセプトとしたアクションプランを策定し、  
 全員参加でRC(レスポンシブル・ケア)活動等に取り組んでいます。

## グリーン宣言

自分たちができることから実行することが、地球規模の環境を護ることにつながります。当社は『グリーン宣言』を掲げ、  
 全社一丸となって「環境を護り、健康で快適な暮らしを創る」  
 をテーマに、環境対応に積極的に取り組み、企業としての責任を遂行しています。

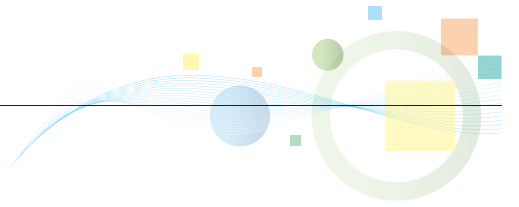
大日本塗料は  
**Green & Clean** をめざしています。



## 環境安全行動計画

RCコード	行動計画
環境保全	VOC取扱量および大気排出量の削減
	廃棄物リサイクル率の向上
	消費エネルギー削減
	環境対応形商品の販売比率向上
保安防災	リスクアセスメントの実施と防災対策
	設備運用と保守点検
	設備事故の発生ゼロ
労働安全衛生	労働災害の発生ゼロ
	長期疾病率の低減
	5S活動とヒヤリハットマップの活用
物流安全	製品輸送、取り扱いにおける事故ゼロ
	輸送安全措置用品(イエローカード、吸着材等)携行の励行とセンター常備品(吸着材等)の保管徹底
化学品・製品安全	原材料の安全性情報の整備
	SDSの提供
	環境・安全に配慮した製品設計と品質管理
社会との対話	地域社会との交流
	環境活動に関する情報発信





	2012年度活動実績	2013年度目標	中長期計画	関連頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● VOC取扱量前年比 8%減</li> <li>● VOC大気排出量前年比 9%減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● VOC取扱量および大気排出量の削減(前年比)</li> </ul>	VOC排出抑制に直結するテーマとして、塗料配合中の有機溶剤削減に取り組むと共に、省エネルギー、廃棄物低減を推進する。	P18
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物リサイクル率 52%</li> <li>● 廃棄物総量前年比 2.7%減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物リサイクル率の改善</li> <li>● 廃棄物総量の削減(前年比)</li> </ul>		P20
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原油換算で前年比 8.3%減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原油換算で削減(前年比)</li> </ul>		P16
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境対応形商品の品揃えを完了し、顧客、販売店に対するPRや環境セミナーによる拡販を展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境対応形商品の拡販</li> </ul>		P4 P9
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産各部署のリスクアセスメントにおける具体的な活動として、各設備の作業調査を継続実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設備、機械の持つ危険性を探り、対策を決定し、横展開を行う。</li> <li>● 新規設備導入時や設備改造時に際して、事前に危険有害性を確認し、必要な対策と管理方法を定める。</li> </ul>	リスクアセスメントに基づく予防措置を含む作業時の保安防災体制を強化する。	—
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前年に引き続き写真等による設備運転基準の見える化を実施</li> <li>● 設備点検基準に基づき月次点検、半年毎に定期点検を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設備保守点検を計画的にもれなく実施</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 物的事故2件発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 物理事故の発生ゼロ</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 休業災害0件 ● 不休災害5件発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害の発生ゼロ</li> </ul>	安全操業確保のための企業風土の維持・改革に努めると共に、従業員のメンタルヘルスにも配慮した働きやすい職場の実現を図る。	P24 P25
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期疾病率の全社目標2.4%に対し3.1%で目標達成できず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期疾病率全社目標2.4%の達成</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工場全体で5S活動を推進</li> <li>● ヒヤリハット内容の検証を行い、対策を実施</li> <li>● 安全衛生委員会および中央環境安全衛生委員会によるパトロールを実施</li> <li>● 安全衛生ビデオを活用した安全教育を実施</li> <li>● 安全衛生ニュースを毎月発刊しPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リスクアセスメントの推進</li> <li>● 5Sの展開</li> <li>● 安全教育を重視し、繰り返し実施</li> <li>● PR、教育、訓練に関する基準類の整備活用</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 危険物・劇物の積載・運搬上の注意事項徹底および実施</li> <li>● 重大事故に繋がる過積載の防止を徹底</li> <li>● 発生した事故については調査、対策報告を実施済み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 輸送取引における危険有害因子特定および周知とそのチェックの完全実施</li> <li>● 製品輸送、取り扱いにおける事故ゼロ</li> </ul>	製品輸送に関するリスクアセスメントを実施し、環境保全、安全、健康を確保する。	—
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イエローカード「危」マーク・消火器・吸着材の携帯を実施</li> <li>● 年一回抜き打ち検査を実施して携帯を確認</li> <li>● 各センターの決められた場所に備品を用意(砂袋・ウエス・スコップ・ほうき)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 輸送安全措置用品(イエローカード、吸着材等)携行の励行とセンター常備品(吸着材等)の保管徹底</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内外の法規制に対応した原料データベースの更新を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原材料の安全性情報整備</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原料情報のメンテナンスとSDSへの反映について継続実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SDSのデータの最新化とGHS対応</li> </ul>	製品に関する化学物質等のリスクアセスメント実施要領作成とリスクアセスメント実施体制の構築	P18
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各塗料事業部が対応している商品開発テーマについてデザインレビュー会議で審査を継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境・健康・安全に配慮した製品設計・品質管理基準の見直しと徹底</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域社会でボランティア活動を実施。地域主催の産業フェスティバル等の行事にも積極的に参加し、交流活動を実施</li> <li>● 工場見学、地域交流会等を開催</li> <li>● 労働基準協会、危険物安全協会、防火協会、ISOネットワーク等の各協会に加盟し活動を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域関係団体、協会活動に取り組み情報交換</li> </ul>	地域立地企業として地域社会との融和を図り、社会から高い信頼を得るように努める。	P27
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会・環境報告書、RC活動報告、環境セミナー、ホームページなどで情報公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会・環境報告書、RC活動報告、環境セミナー、ホームページなどで情報公開</li> </ul>		

# 地球温暖化防止への取り組み

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の抑制に向け、全社規模でエネルギーの適正使用や自然エネルギーの有効活用に取り組んでいます。

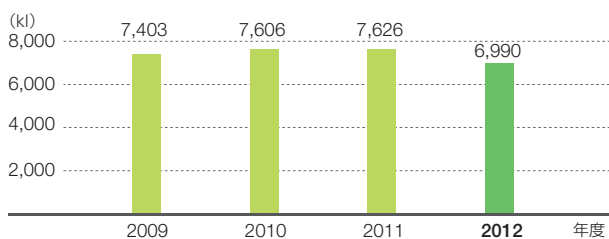


## エネルギー使用量の推移

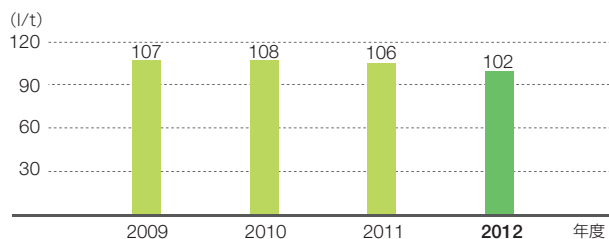
当社は、硬化乾燥時のエネルギー消費量を削減できる低温硬化形焼付塗料や夏季の室温上昇を抑制できる遮熱塗料などの商品を開発・提供しており、これらをご使用いただいた事業所でのエネルギー使用量およびCO<sub>2</sub>排出量の削減に寄与しています。当社の各事業所でも工場・倉庫の屋根に遮熱塗料を塗装し、効果を上げています。

2012年度も電力会社からの削減要求を受け、那須事業所ではコージェネレーションやデマンドコントロールの活用を中心としたピーク時の電力削減を行いました。他の事業所においてもエアコンの設定温度アップ、間引き照明、自販機の停止などを実施、全社規模で原単位におけるエネルギー使用量を削減しました。

### ● エネルギー使用量の推移(原油換算量)



### ● エネルギー原単位の推移(生産量)



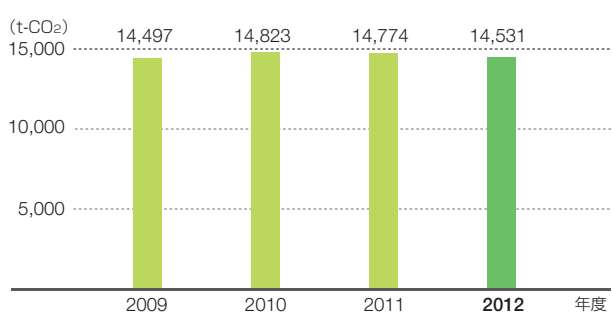
## CO<sub>2</sub>排出量の推移

CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの増加による温暖化によって、海面水位の上昇による土地の流失や砂漠化の進行、森林の喪失、生態系の破壊など、さまざまな影響が生じると考えられています。温暖化を防止するためには、私たちの生活や企業活動によって生じる温室効果ガスを削減することが大きな課題となっています。

2012年度のCO<sub>2</sub>排出量は14,531tで前年度から243tの削減となりました。今後も環境マネジメントシステムの活動テーマとして、エネルギーの適正使用とともにCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組めます。

また、建物の空調エネルギーの削減に伴う節電や都市部ヒートアイランド現象対策に大きな効果がある商品「エコクールシリーズ」に「カーボンオフセット」を付与し、その「CO<sub>2</sub>排出権」は、風力発電などの自然エネルギー開発や植林事業による森林保護などに生かされています。

### ● CO<sub>2</sub>排出量の推移



## TOPICS

### 小牧事業所内の屋根に遮熱塗料を塗装

2012年、夏の省電力対策と促進試験機器の保護を目的に小牧事業所内の技術棟および環境試験棟(促進試験棟)の屋根に遮熱塗料「エコクールマイルドSi」を塗装しました。

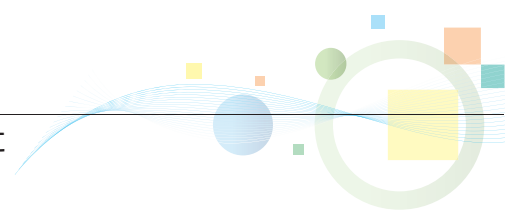
当該年度は春から夏にかけて例年より気温が上昇し、いわゆる「猛暑」となりましたが、以前よりも空調システムの稼働を抑えたにもかかわらず現場環境は改善されました。このことによって夏季における節電や省エネ対策として遮熱塗料「エコクールマイルドSi」が有効であったことが再確認されました。



エコクールマイルドSi塗装

# 大気汚染防止／水質汚濁防止

各種法規制や条例、地域の協定による規制値を遵守するとともに環境負荷物質のさらなる排出量削減を推進しています。

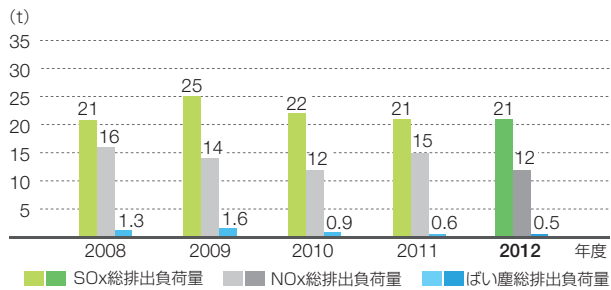


## 大気汚染防止

SOx・NOx・ばい塵(すす)などの大気汚染物質が規制値を超えて工場や事業所から排出・飛散しないように大気汚染防止法・条例・協定を遵守し、その対策を講じています。

VOC(揮発性有機化合物)については工場からの排出抑制とともに、水性塗料、粉体塗料、ハインソリッド塗料などの低VOC塗料を開発し、塗装時における大気中への排出量削減にも取り組んでいます。

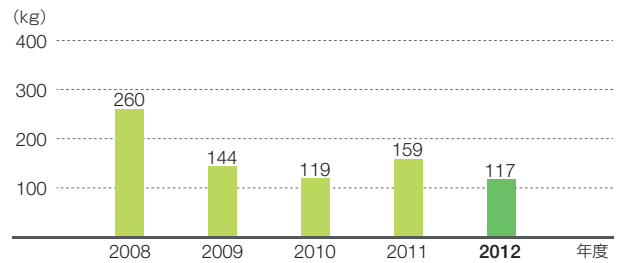
### ● 総排出負荷量



## 水質汚濁防止

水質汚濁防止法・条例を遵守しているほか、工場・事業所のある地元自治体・漁業組合と協定を結んで定期的に水質を検査し、汚濁防止に努めています。また、水質汚濁につながるような漏洩事故の発生を想定して「緊急事態発生対応ガイドライン(事前処置とその対策)」を作成し、事故の未然防止と緊急時の対応に備えているほか、ガイドラインに基づいた防災訓練を定期的実施しています。

### ● 水質総汚濁負荷量(総COD負荷量)



## 環境分析機器

研究・開発、生産管理などの部門では化学物質による環境負荷が生じないように最新の設備機器を導入して環境分析を実施しています。



ICP(誘導結合プラズマ) 発光分析装置



蛍光X線分析装置



小型チャンバー法  
VOC測定装置



走査型電子顕微鏡

# 化学物質の管理

周辺環境や安全への配慮を常に心がけ  
総合的な管理体制の確立とその強化を図っています。

## 化学物質の管理

主力製品である塗料には多くの化学物質が使用されており、生産工程で取り扱う化学物質は環境や健康への影響を避けるために適切な管理が必要となります。化審法・安衛法・化管法(PRTR法)などの法規制を遵守するとともに、原料などに使用する化学物質については公共機関からの情報や原料の安全データシート(SDS)などの情報をもとにデータベースと分類システムを構築し、リスク評価を行い、使用禁止、制限などの管理をしています。

原料などに使用する化学物質についてもリスク評価を実施しています。

## 化学物質規制への対応

化学物質規制は、危険有害性の高い特定の化学物質の使用を規制・禁止することから、広い範囲で使用されているすべての化学物質を対象に、健康や環境への有害性と暴露の頻度からリスクを評価し適切に管理する方向に変わってきました。EUのREACH規制もこの動きの中にあり、ほとんどすべての化学物質の「登録」「評価」と、使用することの「認可」、特定の物質については、使用の「制限」をするものです。国内の化審法や安衛法・化管法(PRTR法)も対象となる化学物質が毎年のように追加され、製造量・輸入量・環境への放出量などの届け出や環境測定が広がっています。近年、中国や台湾で化学物質の規制が厳格化しており、当社はこうした状況にも適切に対処しています。

### ● 化学物質規制

化審法	化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律
安衛法	労働安全衛生法
化管法(PRTR法)	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善に関する法律
REACH規制 (Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)	化学物質に関する登録・評価・認可及び制限に関する指令

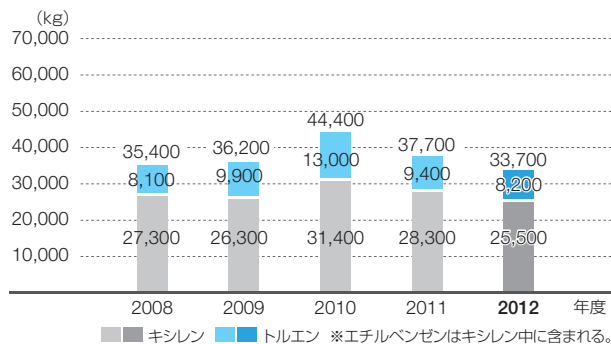
## PRTR法への取り組み

2008年11月に化学物質管理促進法施行令が改正され、PRTR1種の対象化学物質が354種から462種に変更となったことを受けて、各事業所では2011年度以降に改正された対象化学物質で届け出を行いました。

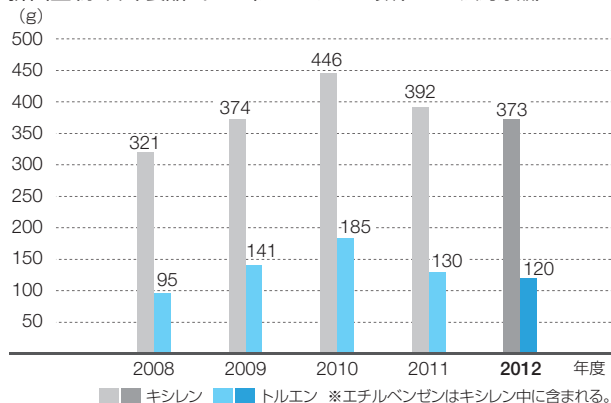
化管法(PRTR法)は、化学物質がどのような発生源から、どれくらい環境中に排出され、また、廃棄物などとして持ち出されたかというデータを把握して集計し、公表する仕組みです。

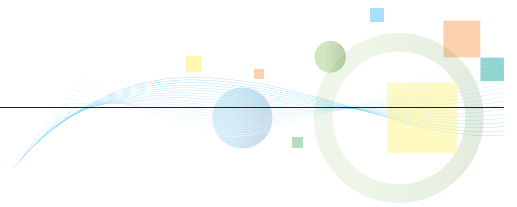
当社では、環境対応形商品の開発を進めるとともに、対象化学物質の削減に取り組んでいます。

### ● 大気排出量の多い2溶剤(PRTR法対象品)



### ● 排出量(原単位)製品1トン当たりのグラム数(PRTR法対象品)





● PRTR法対象物質の排出量・移動量

種類	物質	PRTR 物質番号	2012年度(平成24年度)('12 4月~'13 3月)	
			大気排出量(kg)	移動量(kg)
特定1種	6価クロム化合物	088	0	65
特定1種	鉛化合物	305	0	540
特定1種	ホルムアルデヒド	411	63	670
1種	アクリル酸エチル	003	0	30
1種	アクリル酸及びその水溶性塩	004	0	2.2
1種	アクリル酸ノルマル-ブチル	007	0	47,000
1種	アクリロニトリル	009	0	0.73
1種	2,2'-アゾビスイソブチロニトリル	016	0	0.16
1種	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る)	030	0	54
1種	アンチモン及びその化合物	031	0	110
1種	4,4'-イソプロピリデンジフェノール(別名ビスフェノールA)	037	0	340
1種	エチルベンゼン	053	7,500	45,000
1種	ε-カプロラクタム	076	0	250
1種	キシレン	080	18,000	110,000
1種	クメン	083	0	400
1種	クロム及び3価クロム化合物	087	0	230
1種	コバルト及びその化合物	132	0	96
1種	酢酸ビニル	134	0	27
1種	スチレン	240	37	310
1種	トリエチルアミン	277	0	490
1種	1,2,4-トリメチルベンゼン	296	660	6,800
1種	1,3,5-トリメチルベンゼン	297	510	5,100
1種	トリレンジイソシアネート	298	0	0.17
1種	トルエン	300	8,200	31,000
1種	ナフタレン	302	0	420
1種	ニッケル	308	0	44
1種	バナジウム化合物	321	0	55
1種	フェノール	349	4.5	44
1種	フタル酸ジ-ノルマル-ブチル	354	0	220
1種	ターシャリーブチル=ヒドロペルオキシド	366	0	77
1種	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	391	0	3.5
1種	ノルマル-ヘキサン	392	0	40
1種	ペルオキシ二硫酸の水溶性塩	395	0	550
1種	1,2,4-ベンゼントリカルボン酸1,2-無水物	401	0	26
1種	ほう素化合物	405	0	110
1種	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る)	407	0	9.5
1種	ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	410	0	340
1種	マンガン及びその化合物	412	0	80
1種	無水フタル酸	413	0	110
1種	無水マレイン酸	414	0	0.25
1種	メタクリル酸	415	0	9.9
1種	メタクリル酸2-エチルヘキシル	416	0	2.1
1種	メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	417	0	720
1種	メタクリル酸ノルマル-ブチル	419	0	25
1種	メタクリル酸メチル	420	0	260
1種	α-メチルスチレン	436	0	0.31
1種	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	448	0	140
合 計			34,974.5	251,801.82

# 廃棄物の削減／グリーン調達・購入

資源の有効活用や有害物質の漏出防止に取り組むとともに  
グリーン調達に適應する商品の品揃えおよびグリーン購入を推進しています。

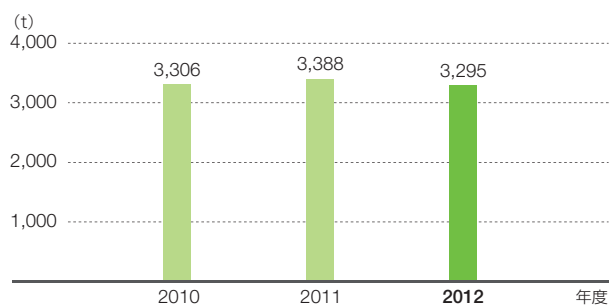


## 廃棄物排出量の削減

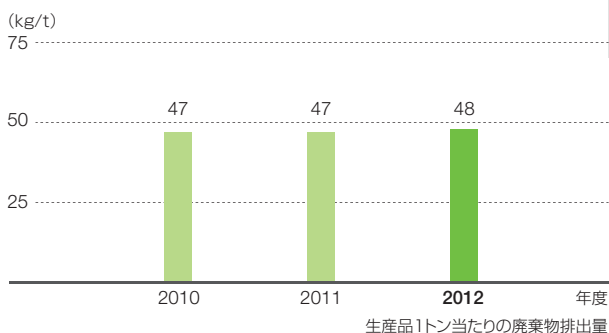
廃棄物の削減・リサイクルを全事業所の活動テーマとして取り組んでいます。2012年度の廃棄物排出量(総量、原単位)は前年比でほぼ横ばいの結果となりました。

今後もリサイクルをさらに進め、限りある資源の有効利用と廃棄物削減に取り組んでいきます。

### ● 廃棄物排出量の推移(総量)



### ● 廃棄物排出量の推移(原単位)



## 有害物質の漏出防止のための取り組み

有害な化学物質が外部に漏れ出すと地域社会と周辺環境に深刻な影響をもたらすため、那須および小牧の両事業所では漏出事故に迅速に対応するための訓練を定期的に行っています。



那須事業所の漏洩訓練

## グリーン調達・購入

グリーン調達とは、製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して必要性をよく考え、環境への負荷をできるだけ少なくするものを選んで購入することです。

こうした取り組みは、購入者自身の活動が環境に優しいものになるだけでなく、製造企業にも環境負荷の少ない製品の開発を促すことになり、経済活動全体を変えていく可能性があります。

2001年4月1日施行のグリーン購入法(正式には「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」)では、公共機関だけでなく、地方公共団体や事業者および個人にもグリーン購入に努めることを求めています。

2001年2月に紙類・文具・自動車・公共事業など14分野について101品目特定調達品(グリーン商品)が公示されましたが、2002年4月からの適用品目に、塗料では初めて「下塗塗料(重防食)(鉛・クロム等の有害重金属を含む顔料を配合していないこと)」が公共事業の分野で指定されました。

当社では、グリーン調達に適應する商品の品揃えを行うとともに、原材料等の調達においてもグリーン購入を実施しています。

### 大日本塗料のグリーン購入に基づく 主な特定調達品目

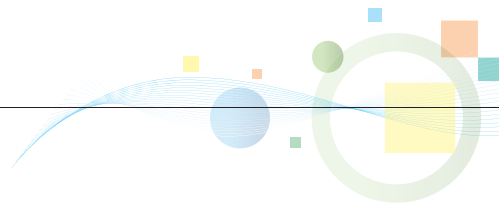
1. エコクールシリーズ  
(エコクールマイルド、エコクールアクアSi等)
2. グリーンシリーズ  
(グリーンポーセイ、グリーンズボイド)
3. エポオールシリーズ  
(エポオール、エポオールスマイル等)
4. エポニックスシリーズ  
(エポニックス#10下塗、エポニックス#20下塗等)

### 各業界のグリーン購入への対応

各業界のお客様への当社商品の納入は、顧客ごとのグリーン購入規定を満足すべく審査を受け、認定を得ています。

# 環境コミュニケーション

塗料メーカーとして向き合うべきテーマを探るために  
社内外でさまざまな取り組みを行っています。



## 環境に配慮した「カラーデザイン」の制作

当社のカラーセンターでは、「快適な色彩環境」をテーマに地域の景観に調和した穏やかな配色に留意し、マンション・住宅などの建築物や橋梁・プラントなどの構造物のカラーデザインを制作しています。またコンピューターグラフィックスを駆使し、顧客に対して塗装後のイメージや色彩効果について事前に説明を行っています。

一方で各種団体の講演会や勉強会で「景観色彩」についての解説を行い、美しい都市環境や快適な生活環境の実現に取り組んでいます。



橋梁のコンピューターグラフィックス事例：塗り替え前



塗装後のイメージA案  
橋梁を走る電車カラーとの調和を配慮した配色。シャープさとスピーディな印象を与えます。

塗装後のイメージB案

江戸っ子が好んだ紫を意識した粋な配色。  
郷土の人々の心に残る、魅力的な景観を創ります。

### TOPICS

## 「ジャパンホーム&ビルディングショー2012」に出展

2012年11月14～16日、国内外の建築材料メーカーが参加した展示会が東京ビッグサイトで開催され、当社は日本建材・住宅設備産業協会のブース内に遮熱塗料「エコクールシリーズ」と新商品の「DNT断熱テクト」を出展しました。

国内外を問わず「省エネ・環境対応」の塗料が注目される中、遮熱に関してはカーボンオフセット証明書発行システムや塗料の調色についての解説、下塗りプラス上塗りのダブル効果で断熱効果と遮熱を発揮する「DNT断熱テクト」が好評でした。



### TOPICS

## 第1回「WASS in Singapore」にDNTブースを出展

2012年5月10～11日、シンガポールのサンテクシティー・コンベンションセンターで開催されたWASS (Workshop on Advancing the use of Steel Structure for High-Rise Building in Singapore : 鋼構造による高層建築物普及に向けた研究会)主催の第1回セミナーに参加した当社は、塗料メーカーとして唯一展示ブースを開設しました。

当日は、層分離粉体塗料「パウダーフロンSELA」、シンガポールで実績の高い「デュフナー」、東京スカイツリー®に採用された「VフロンHBシステム」、そのほか「水性重防食塗装システム」「サビシャット」およびグループ企業であるDNT Singapore Pte., Ltd.からは、耐火被覆塗料を出展し、来場者から高い関心を集めました。



# お客様との関わり

塗料メーカーとしての品質確保を徹底し  
お客様との信頼関係の構築をめざしています。

## 品質方針

当社は、環境対応技術・商品開発にいち早く取り組み、塗料業界をリードしてきました。今後も「環境保全」「省エネ・省資源」「省力化・高機能化」など、“環境時代をサポートする技術”の優位性確保に努めるとともに、商品の開発スピードを早め、顧客のニーズに応えられる製品を継続的に提供していきます。

### 品質方針

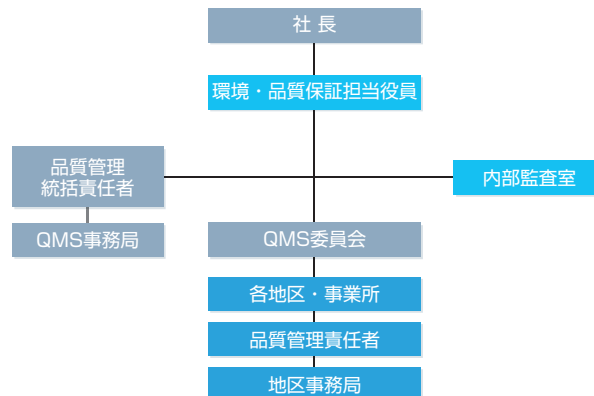
大日本塗料株式会社は次の品質方針を定める。

- ① 顧客の要求品質を捉え、顧客の期待する製品及びサービスを遅滞なく適切に提供すること。
- ② 顧客の要求品質を実現化するため、必要な経営資源を確実にし提供すること。
- ③ 常に社会変化に対応し、自己の能力を最大限発揮し顧客満足度を高めること。
- ④ 品質マネジメントシステムを全員が理解し、計画的で効率的運用活動を実施し、且つ継続的改善を行うこと。
- ⑤ 環境保全等、地域社会を配慮した社会品質の向上に努め、社会に貢献すること。

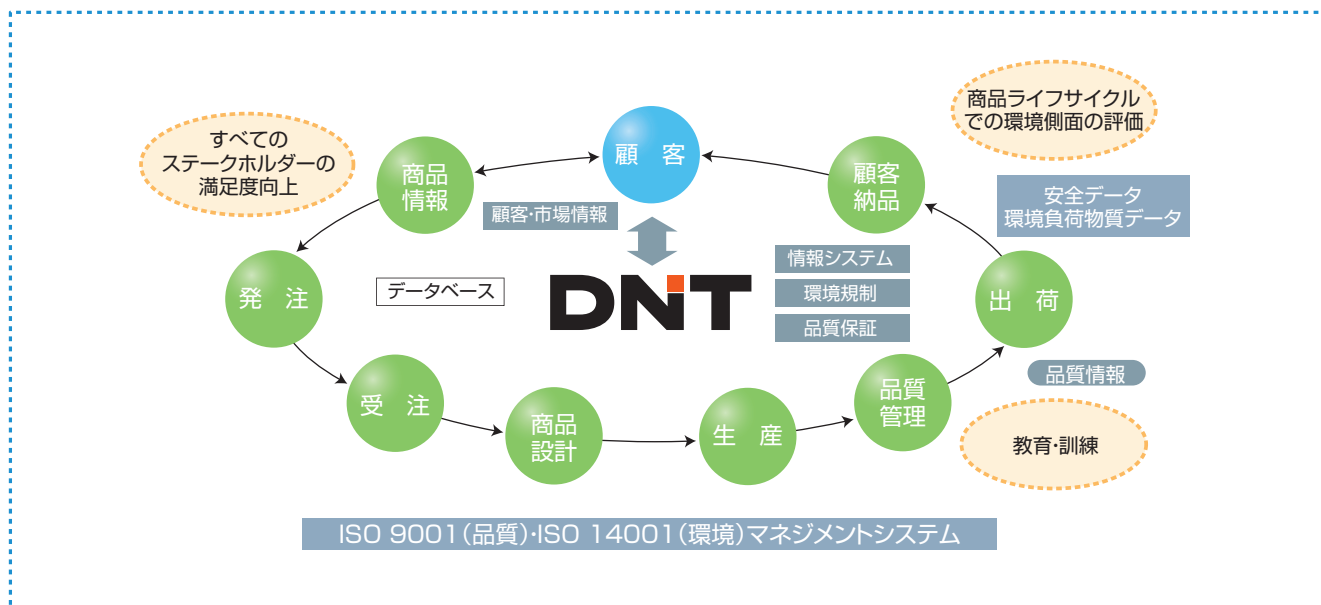
## 品質保証体制

当社は、生産関連会社および販売関連会社を含めた大日本塗料グループの一員として塗料製品の製造・販売の事業を行っています。メーカーとして不可欠の安心と信頼の品質保証体制を維持するためには、これらの大日本塗料グループ全体の連携・対応が重要となることから、全営業所においてもISO 9001の認証を取得するなど、設計・生産・販売を一体化した品質保証体系を構築して顧客への対応を図っています。

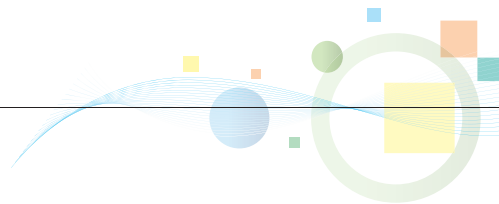
### ● 品質保証体制図



### ● QMS・EMSをベースとした顧客対応システム







## 賀詞交歓会を開催

2013年1月、大阪本社と東京営業本部において賀詞交歓会を開催しました。

2013年度は中期経営計画の最終年度となることから安定的成長路線の基盤を固める年と位置づけ、経営目標の完遂をめざす決意表明とともに取引先等へ感謝の意を表しました。あわせて販売系関係会社の吸収合併、照明部門における完全子会社化などスピード感を持って企業の変革に取り組んでいることを報告しました。



「賀詞交歓会(東京営業本部)」風景

## 塗料相談室

当社では、全役員・社員が「お客様の立場に立って行動する」ことをモットーとしており、常にお客様満足度の向上に取り組んでいます。その一環としてお客様と当社とを電話・Eメールで結ぶ「塗料相談室」を設置しています。

塗料相談室フリーコール

イロヨイ  
**0088-22-1641**

受付時間 平日の9:00~16:30

「塗料相談室」では色・規格・塗装仕様・商品の使用方法・塗装時のトラブルへの対処方法などのご相談への対応、環境対応塗料選択マニュアル「クリーン環境提案」をはじめとする各種資料・カタログ類の提供、新商品の案内などを行っており、技術的に高度な内容のご相談については専門の部署が対応しています。

また「塗料相談室」にお寄せいただいた貴重なご意見・情報等は社内の関係部署にフィードバックし、以後の活動に生かしています。

なお、ご相談はホームページでも受け付けています。

URL: <http://www.dnt.co.jp/japanese/toiawase.htm>

## 販売店の人材育成の支援

当社では販売店での幅広い人材育成を目的として、実務に役立つ基本知識と最新の情報提供に17年前から取り組んでいます。

業務知識分野では営業としての基本と演習を盛り込んだ「営業スキルパワーアップコース」、塗料についての環境と安全に関わる法規制を学ぶための「環境安全・品質コース」の研修講座を開設しています。

また、商品知識分野では業種別の塗料について学ぶ専門コースを設け、塗料に関する知識および塗装技術だけではなく、営業活動におけるノウハウについての講義を加え、より実践的な研修講座を開催しています。



研修風景

## 「カラーユニバーサルデザイン」の導入

当社のカタログやカレンダーには、生まれつき色の見え方が異なる色弱の方や、白内障など目の疾患で色が見づらい弱視の方にも識別が容易で、正確な情報が伝えられるように「カラーユニバーサルデザイン」を導入しています。

また「DNTカレンダー」にはユニバーサルフォントを採用し、弱視の方でも視認しやすい大きさで表示しているほか、土曜・休日・祭日の数字には、独自の縁取りを施して平日の数字と区分しやすいように配慮しています。



「2013DNTカレンダー」



色弱(D型)の方の見え方

# 従業員との関わり

自己実現と成長を促すような公正な評価と処遇、  
多様な人材が安心して働ける職場づくりに取り組んでいます。

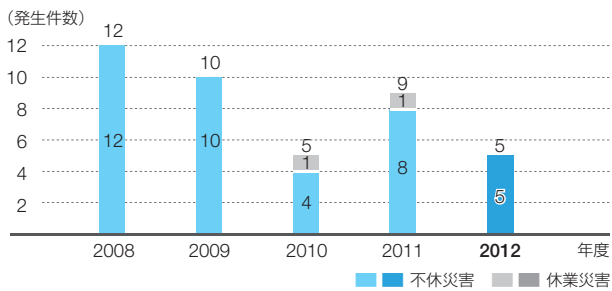
## 労働災害防止への取り組み

当社の生産拠点である那須・小牧両工場では、職場に潜在する危険性または有害性を特定し、それらのリスクを除去あるいは低減するための措置を検討し、労働災害を未然に防止するリスクアセスメント活動を実施しています。

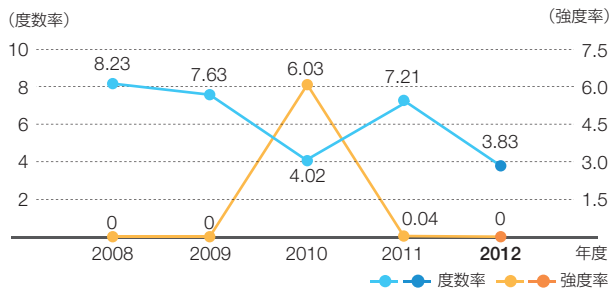
また、保護具の着用など各事業所・グループ会社が共通で取り組むべきことは、安全に関する教育資料である「標準製造作業要領書」を活用し、災害防止に取り組んでいます。

2012年度は、グループ会社においても環境品質保証部による安全パトロール、経営幹部による当社事業所・グループ会社を対象とした環境・安全パトロールを実施し、適切な改善指導を行いました。

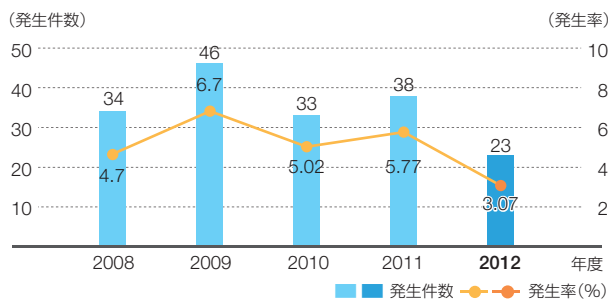
### ● 労働災害発生件数



### ● 労働災害発生度数率・強度率



### ● 長期疾病発生件数



## 消防訓練の実施

那須事業所および小牧事業所においては、独自に自衛消防隊を組織し、毎月消防訓練を行っています。また、防災計画を策定して火災や災害発生に即応できる体制づくりに取り組んでいます。

小牧事業所では、2013年3月に、女性を対象とした消火器の取り扱い講習を実施しました。



消火器訓練



消防訓練

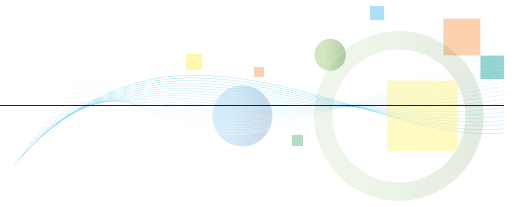
## TOPICS

### 交通安全講習会の開催

大阪事業所では、地元の此花警察署および交通安全協会の協力のもと、毎年8月に交通安全講習会を実施し、交通ルールを守ることの大切さを訴えています。講習会では飲酒運転の危険性を具体的な事故事例とともに講話やDVD視聴で紹介し、参加者からの関心を集めました。



交通安全講習会



## 環境・安全パトロール

中央環境安全衛生委員会では同じ災害を繰り返さないことを念頭に環境・安全パトロールを実施しています。とくに機器等への「はさまれ・巻き込まれ」は大きな事故になりかねないため、改善が必要な場合は、現場指導を行うなど重点的に注意を喚起しています。

### ● 改善フォローの内容と件数

項目	2010年度 件数	2011年度 件数	2012年度 件数
はさまれ、巻き込まれ、突起物対策	22	10	28
静電気対策	0	1	2
環境影響対策	2	1	7
健康被害の防止	3	0	2
5S関連	18	11	14
その他	11	10	7
合計	56	33	60

5S：整理・整頓・清潔・清掃・躰

### 2012年度の重点項目

- ① はさまれ・巻き込まれ(回転物)・突起物対策の実施状況
- ② 静電気対策の実施状況
- ③ 容器の蓋閉め・粉塵の飛散防止・漏出防止対策の実施状況
- ④ 保護具・局所排気装置・衛生設備の点検
- ⑤ 5S関連の実施状況

## 健康増進への取り組み

通常の健康診断に加え、有機溶剤取扱者への特殊健康診断を定期的実施しています。診断の結果、経過観察や治療が必要な場合は産業医が面接して改善を指導しています。

またTHP(トータル・ヘルス・プロモーションプラン)運動に参加して従業員の心とからだの健康づくりに取り組んでいます。



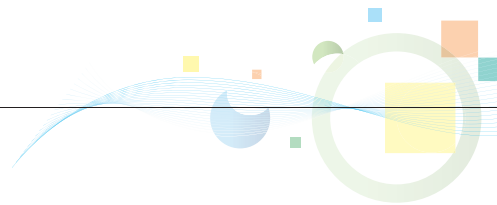
健康診断

## ワーク&ライフバランスの推進

変化の激しい社会環境の中で新しい知識・技術を身につけたり地域社会での活動に取り組むことは、個人の生きがいに留まらず、仕事の満足度を高めることにもつながり、それは企業の業績にも反映されます。

当社では、従業員の仕事と生活の両立をサポートするために、自己啓発・フレックスタイム・育児休業・介護休業などの各制度を設けるとともに、従業員の社会参加を積極的に支援しています。

また、人材育成・職場巡回指導・健康増進への取り組みをはじめ、労働組合主催によるレクリエーションなど、従業員との関わりを考慮した活動を実施しています。



## 人事制度

より働きがいのある職場・企業づくりと会社および従業員双方の発展と成長を目指した人事制度を導入しています。

評価については、年5回の面接を軸に資格要件・昇格条件・賃金体系を開示するとともに、より仕事に基づいた「納得感」のある体系にすることで、従業員の目標や方向性を明確にした制度としています。

本制度の適正な適用を通して、従業員一人ひとりの意欲の向上、人材の育成、さらには会社全体の活性化をめざしています。

### 人事制度のポイント

- 人材を軸に会社を活性化できる人事システム
- 成果につながる行動をとった人、成果を上げた人が報われる“やりがいのある人事制度”
- 仕事に基づき、一人ひとりの成長を支援する評価体系
- 人材を軸とした企業活性を支える周辺制度

## 人材育成

当社は、階層別研修として中堅社員育成研修やリーダー研修・基幹職研修などを体系化し、本人の希望や適正を配慮したキャリアを形成するための環境を整えています。

一例として、塗料製造工程の重要な要素の一つである調色作業をベースとした社内資格制度(調色士)を設けています。関係会社を含む各製造場所にて年一回の学科試験・実技試験が行われ、検定委員会の審議の後、等級毎に認定されることによって、従業員のスキルアップに繋がっています。



調色士学科講習風景

## 再雇用制度・高齢者雇用の推進

定年退職者が引き続き就労することを希望した場合、高齢者雇用安定法の趣旨に基づいて「シニアスタッフ制度」を採用しています。

これは定年退職者の豊富な経験・知識・技能を会社の業務に生かし、併せて高齢者の生きがいの充実を図りながら会社の発展に資することを目的としたものです。

## 障がい者雇用の促進

障がい者の社会参加と職業的自立を図るために、雇用・就労の場を確保することが企業としての社会的責任です。当社では障がい者雇用促進法などの関係法令に則って基本的な方針を策定し、全事業所をあげて障がい者の雇用に積極的に取り組んでいます。

## 人権の尊重

性別・年齢・出身地・社会的身分などの理由で差別をせず、個性・能力を生かし尊重することが人権尊重の基本です。当社は、企業倫理規範の中で「人権と個性を尊重し、<sup>かつ</sup>明朗で自由闊達な企業風土を築く」ことを宣言しています。

また従業員の人格を尊重し、雇用の差別がないように雇用管理のルールを確立し、一人ひとりが安心して仕事ができる職場環境づくりに取り組んでいます。



調色士実技試験風景

# 社会との関わり

地域社会への貢献をめざし、従業員一人ひとりが社会貢献活動に積極的に参加しています。



## 地域社会への貢献

### 地元美化活動へ塗料を提供

大阪本社では、JR西九条駅高架下および本社横の六軒家川堤防におけるアートペイント事業「西九条ビューティー作戦」(大阪市此花区役所主催)に協賛し、地元高校生、指導教諭、アーティストへ塗料「DNTビューフッソ」を提供しました。



堤防アート作成風景



JR西九条高架下アート作成風景

### 小牧クリーンアップ活動

小牧事業所では、恒例となっている「クリーンアップ活動」(小牧市主催)に協賛し、工場周辺の清掃活動に従業員が参加しました。



小牧事業所参加メンバー



清掃活動風景

## 社員のボランティア活動

「第4回国際クラス別肢体不自由者卓球大会」(大阪市舞洲障害者スポーツセンター)に当社社員がボランティアとして大会運営に協力しました。今後もスタッフとして活動を継続していきます。

## 授産施設の自立を支援

大阪本社では大阪府が推進する「授産施設収入倍増プロジェクト」に協賛し、地域の授産施設の皆さんがつくったクッキー、パウンドケーキ、パンなどを当社社員向けに販売するため毎月一回、昼休みに本社食堂の一角を提供しています。同プロジェクトではインクカートリッジの回収事業も行っています。



販売風景

## グループ会社の取り組み

### 水質事故被害拡大防止訓練に参加

当社のグループ会社である日東三和塗料株式会社(滋賀県湖南市)では毎年、湖南・甲賀環境協会主催による「水質事故被害拡大防止訓練」に参加しています。

油などの流出事故は環境への影響だけではなく、その被害が地元の農業や漁業にも広がる可能性があります。事故を起こさないことはもちろんのこと、万一事故が発生した際に被害を最小限にとどめることがメーカーの責務であるという認識の下、このような訓練を実施しています。



水質事故被害拡大防止訓練  
(湖南・甲賀環境協会提供)

# コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス

透明性の高い健全な経営基盤の構築に向けて  
コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

## コーポレート・ガバナンス体制

大日本塗料グループは、社会から広く信頼され、親しまれる存在であり続けられるよう、常に健全性と遵法性・透明性の高い経営を推進するコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。株主・顧客・取引先・地域住民・社員などすべてのステークホルダーへの情報公開や説明責任を果たすことはもちろん、経営各層の責任を明確にし、違法行為などをチェック・防止する体制を敷いています。

監督・監査体制は「取締役会」と「監査役会」が担っています。取締役会は取締役8名で構成し、そのうち1名が社外取締役で、経営の監督にあたっています。また、監査役会は常勤監査役2名、非常勤監査役1名の計3名で構成しており、うち2名が社外監査役です。

業務執行体制では「執行役員制度」を採用。取締役は、経営の迅速化・監督機能の強化などの経営機能に専念し、各部門統括などの業務執行権限は執行役員に委ねて執行責任を明確にしています。

## 内部統制

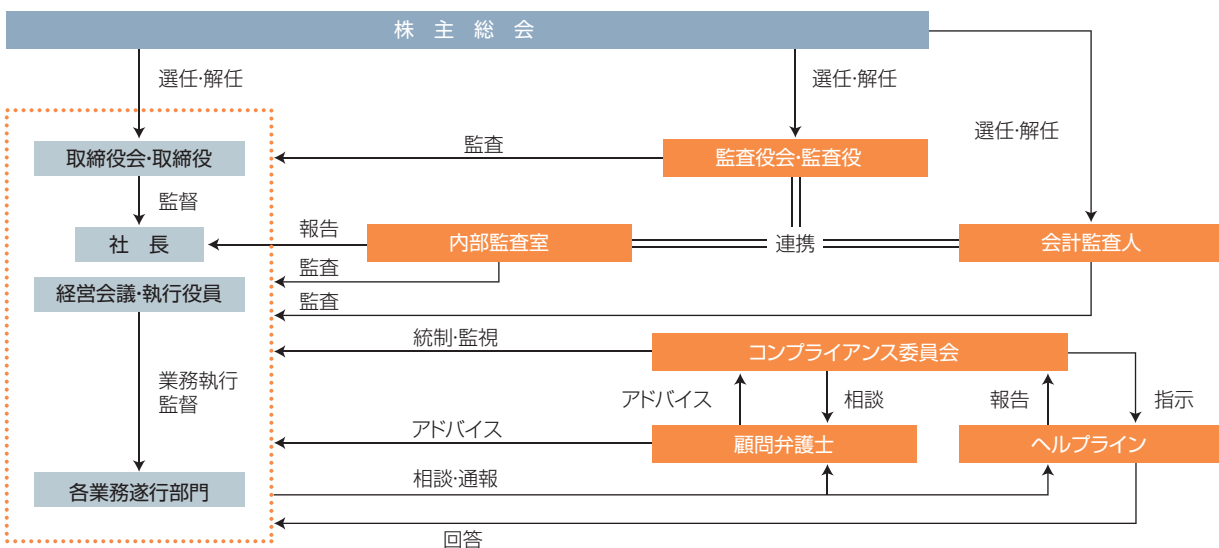
大日本塗料グループでは、すべてのステークホルダーの信頼と期待に応え、社会的責任を果たすことを目的として、IT等も活用した内部統制の仕組みを構築しています。グループ全体が効率よく業務を進め、さまざまな課題を解決し、事業目標を達成してより健全な発展を目指しています。

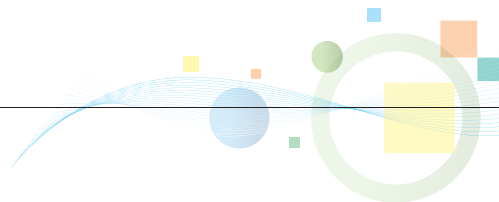
2007年3月には、内部統制の考え方やルールをグループ全体に定着させ、企業体質を強化するため『内部統制ハンドブック』を作成して全グループ役員および従業員に配布し、日常的に活用しています。また、内部統制の仕組みが有効に機能しているかを常に確認するため、①監査役による監査②内部監査室による監査③監査法人による監査④職制によるチェックの4通りの監査を行っています。



内部統制ハンドブック

●コーポレート・ガバナンス体制図





## コンプライアンスの推進

昨今起きている企業の不祥事の多くがコンプライアンス（法令遵守）違反であり、その背景には「ルールがない」「ルールを守らない」などの企業体質・風土があるとされます。コンプライアンスとは、広く解釈すれば法令だけでなく社会モラルや会社の規則を守ること含まれており、コーポレート・ガバナンスを実現するためには内部統制の基本となる従業員全員によるコンプライアンスの徹底と推進が必要となります。それが内部統制さらにはコーポレート・ガバナンスの成否にも影響することになります。

当社は顧客・社会の信頼、株主の期待に応えるべく良き企業市民としての自覚を高め、法令遵守はもとより社会倫理規範に適合したコンプライアンス経営を行うことについて「企業行動憲章」を定めています。

また、大日本塗料グループでは大日本塗料内および顧問弁護士事務所に「コンプライアンス相談窓口」を設け、内部統制上疑問に思うことがある場合にはEメール、専用電話または封書で相談・報告できる体制を確立しています。なお、この際の相談・報告者に何らの不利益も生じることのないようプライバシーは完全に保護されます。

企業行動憲章URL : <http://www.dnt.co.jp/japanese/compliance.htm>

### TOPICS

#### 内部統制・コンプライアンス研修

大日本塗料グループ全体で内部統制とコンプライアンス理解のための社内研修を継続的に実施しています。

2012年度は従業員を対象にした研修を実施し、業種別に日常業務から生じる可能性のあるコンプライアンス違反について、映像を用いたケーススタディを行いました。



コンプライアンス研修風景

## 個人情報の保護

大日本塗料株式会社は、当社が現在保有している、あるいは将来保有する情報者ご本人を識別し得る情報（以下、個人情報という）を保護することが重要であることを認識し、これら個人情報を適切、適正に保護するために以下のように取り組んでいます。

### 個人情報保護方針

- ① 当社は、個人情報<sup>\*1</sup>を取り扱う際に、個人情報保護法をはじめ個人情報保護に関する関係諸法令および経済産業省のガイドラインに定められた義務ならびに本保護方針を厳正に遵守することを誓約します。
- ② 当社は、利用目的をできる限り特定したうえで、あらかじめご本人<sup>\*2</sup>の同意を得た場合および法令により例外として扱われる場合を除き、利用目的の範囲内でのみ、個人情報を取り扱います。
- ③ 当社は、個人情報を取得する場合には適正な手段で取得し、法令により例外として扱われるべき場合を除き、利用目的をあらかじめ公表するか、取得後速やかにご本人に通知または公表します。但し、ご本人から書面で直接取得する場合には、あらかじめ利用目的を明示します。
- ④ 当社は、取り扱う個人データ<sup>\*3</sup>を、利用目的の範囲内で正確・最新の内容に保つよう努め、また、漏洩、滅失または毀損の防止、その他個人データの安全管理のために必要・適切な措置を講じ、従業員<sup>\*4</sup>および委託先に対し必要かつ適切な監督を行います。
- ⑤ 当社は、法令等により例外として扱われるべき場合を除き、あらかじめご本人の同意を得ることなく、個人データを第三者に提供しません。
- ⑥ 当社は、保有個人データ<sup>\*5</sup>につき、法令に基づきご本人からの開示、訂正、利用停止等に応じます。
- ⑦ 当社は、取り扱う個人情報につき、ご本人からの苦情に対し迅速かつ適切に取り組み、そのための社内体制の整備に努めます。
- ⑧ 当社は、取り扱う個人情報につき適正な内部監査を実施するなどして、本保護方針の継続的な改善に努めます。

<sup>\*1</sup> 生存する個人に関する情報であって、特定の個人を識別できるものをいう。

<sup>\*2</sup> その個人情報によって識別される特定の個人をいう。

<sup>\*3</sup> 個人情報データベース等を構成する個人情報をいう。なお個人情報データベース等とは、個人情報を含む情報の集合物であって、特定の個人情報を電子データベースのほか容易に検索できるように体系的に構成したものであるとして法令で定められたものをいう。

<sup>\*4</sup> 当社の役員、従業員のほか派遣社員などを含む。

<sup>\*5</sup> 開示、内容の訂正等の権限を有する個人データであって、その存否が明らかになることにより公益その他の利益が害されるものとして法令で定めるもの、または6ヶ月内に消去することとなるもの以外のものをいう。

平成17年4月1日制定

個人情報の保護URL : <http://www.dnt.co.jp/japanese/security.htm>

個人情報保護に関するお問い合わせは下記宛にお願いいたします。

大日本塗料株式会社 管理本部 総務部

E-mail : [kojin@star.dnt.co.jp](mailto:kojin@star.dnt.co.jp)

# 海外グループ会社の取り組み

大日本塗料グループの一員として、同じ目標に向け、歩調を合わせて活動しています。

## Thai DNT Paint Manufacturing Co., Ltd.

会社設立 1969年12月  
所在地 38/25 M.5, Laem Chabang Industrial Estate, Sukhumvit Rd., Tungsukla, Sriracha, Chonburi, 20230 Thailand  
従業員 326名  
月産生産能力 800トン  
主要製品 重防食用塗料、工業用塗料

Thai DNT Paintでは自動車部品向けの塗料を中心に工業用塗料・重防食用塗料を製造・販売しています。1999年にISO 9001、2004年にはISO 14001の認証を取得しました。



### 環境保全への取り組み

#### ■ 大気汚染の防止

工場からの大気汚染物質の排出または飛散を防ぐために集塵システムを稼働させています。



#### ■ 廃棄物の削減

パレット等を再利用して廃棄物を削減するなどリサイクル活動を推進しています。



### 安全への取り組み

#### ■ 消火訓練

火災発生時の初期消火を確実に実施するため、定期的な消防訓練を通じて従業員への防火教育の徹底に取り組んでいます。



#### ■ 塗料製品の管理

危険物倉庫の棚にスプリンクラーを設置して、安全な保管を心がけています。また施設内でも品質の劣化が生じないように万全の管理体制を確立しています。





## DNT Singapore Pte., Ltd.

会社設立 1972年10月  
所在地 48 Tanjong Penjuru  
Singapore 609033  
従業員 34名  
月産生産能力 300トン  
主要製品 金属焼付塗料、  
重防食塗料、建築塗料、  
プラスチック塗料

DNT SINGAPOREでは金属焼付塗料・重防食塗料・建築塗料を主力に製造・販売を行っています。1993年1月にはISO 9001、2012年11月にはbizSAFE(シンガポール政府が労働安全基準を満たす企業を評価・認定する制度)でレベル3の認証を取得するなど、品質管理と環境配慮の両分野を重視した活動に取り組んでいます。



### 環境保全への取り組み

#### ■ 大気汚染の防止

現地の法規制に基づいて、工場に集塵システムを設置し、大気中への有害物質の飛散を防いでいます。



#### ■ 流出・漏洩の防止訓練

塗料や原材料を外部に流出・漏洩させることがないように定期的に防止訓練を実施しています。



#### ■ 廃棄物の削減

洗浄用溶剤を再利用し、廃棄物の削減に努めています。

### 安全への取り組み

#### ■ 消火訓練

初期消火を迅速かつ適切に行えるように工場における火災発生を想定し、定期的に消防署との共同消火訓練を実施しています。



#### ■ 可燃性製品の管理

可燃性製品は、専用エリアで保管・管理し、安全性を確保しています。



# 会社概要

**商号** 大日本塗料株式会社  
**本社** 大阪市此花区西九条6-1-124  
 TEL 06-6466-6661  
 FAX 06-6462-0788  
**設立** 昭和4年7月25日  
**資本金** 88億2千7百万円  
**代表者** 代表取締役社長 岩浅 壽二郎  
**従業員数** 650名(連結：2,164名)  
**決算期** 3月31日  
**売上高** 70,824百万円(連結2013年3月期通期)  
**経常利益** 2,545百万円 (連結2013年3月期通期)  
**事業内容** 各種塗料の製造販売、塗装機器装置の販売、塗装工事、その他



本社・大阪事業所

## 国内・海外ネットワーク

- 本社・大阪事業所 / 大阪市此花区
- 那須事業所 / 栃木県大田原市
- 小牧事業所 / 愛知県小牧市
- 北港事業所 / 大阪市此花区
- 相模製造所 / 神奈川県厚木市
- 滋賀製造所 / 滋賀県湖南市
- 東京営業本部 / 東京都大田区
- 東日本販売部  
札幌営業所・仙台営業所・北関東営業所・埼玉営業所・東京営業所・新潟営業所・千葉営業所・神奈川営業所・静岡営業所
- 西日本販売部  
名古屋営業所・富山営業所・大阪営業所・京滋営業所・神戸営業所・岡山営業所・広島営業所・高松営業所・福岡営業所・長崎営業所
- 工場  
那須工場・小牧工場

## 当社グループの事業内容 (2013年4月1日現在)

塗料事業	当社及び国内関係会社	16社
	海外関係会社	10社
照明機器事業	DNライティング(株)など	3社
蛍光色材事業	シンロイヒ(株)	1社
その他	関係会社	6社



■ 主な海外関係会社

- DNT Singapore Pte., Ltd.(シンガポール)
- Thai DNT Paint Manufacturing Co., Ltd.(タイ)
- DNT Paint (Malaysia) Sdn. Bhd.(マレーシア)
- PT.DNT Indonesia(インドネシア)
- LILAMA3-Dai Nippon Toryo Co., Ltd.(ベトナム)
- Dai Nippon Toryo Mexicana, S.A.de C.V.(メキシコ)
- DNT (Shanghai) Co., Ltd.(中国)
- AJISCO-DNT (Ningbo) Paint Co., Ltd.(中国)
- DNT (Qingdao) Co., Ltd.(中国)

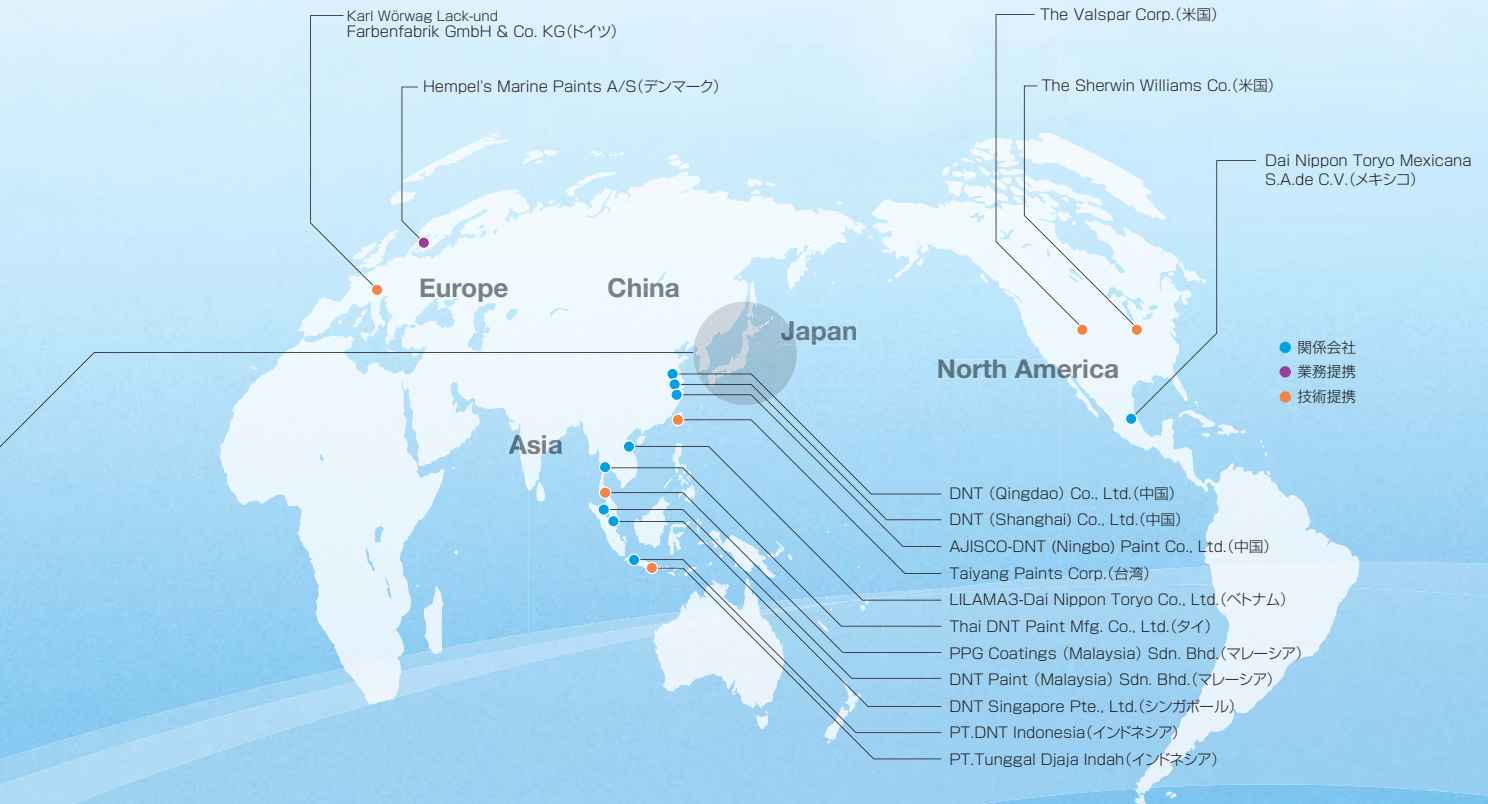
■ 業務提携

- Hempel's Marine Paints A/S(デンマーク)

■ 技術提携

- Taiyang Paints Corp.(台湾)
- PT.Tunggal Djaja Indah(インドネシア)
- PPG Coatings (Malaysia) Sdn. Bhd.(マレーシア)
- The Valspar Corp.(米国)
- The Sherwin Williams Co.(米国)
- Karl Wörwag Lack-und Farbenfabrik GmbH & Co. KG(ドイツ)

● 海外ネットワーク



Dai Nippon Toryo Mexicana, S.A.de C.V. (メキシコ)



DNT Paint (Malaysia) Sdn. Bhd. (マレーシア)

